

2020 年度 学生調査報告

九州ルーテル学院大学

はじめに

九州ルーテル学院大学(以下、本学)では 2016 年度より毎年、IR 委員会による学生の動向に関するアンケート調査を実施しております。2020 年度においては、教育や学生支援の質の向上や大学運営の改善のためにさらにアンケート項目を改変しております。また、2019 年度に引き続き、本調査アンケートは WEB 上で実施されました。

地域に役立つ研究・実践と質の高い教育の保障を目指して向上を志す本学は、地域の皆さまや学生保護者の皆さまに説明責任を果たし、皆さまからご意見をいただくために、ここにアンケート調査結果を公表いたします。この報告書についてご意見・ご質問がございましたら、こちらまで(メール: inntelligence-c-klc@klc.ac.jp)でお知らせください。

調査概要

《調査対象者》

2020 年度在学学生 717 名(内訳:心理臨床学科 299 名,人文学科こども専攻児童教育コース(以下、児童教育コース)104 名,人文学科こども専攻保育コース(以下、保育コース)135 名,人文学科キャリア・イングリッシュ専攻(以下、キャリア・イングリッシュ専攻)179 名)。

《調査時期》

2020 年 12 月下旬から 2021 年 1 月末。

《調査方法》

1～4年生(5 年以上在籍者も含む)および長期履修学生に web アンケートを実施しました。学科・専攻の必修科目の授業担当者や特別研究および卒業研究の授業(ゼミ)担当者が学生に、web アンケートに回答するよう依頼しました。

《回収率》

回答項目によって若干異なりますが、回収率は学年ごとに以下のようにになっています。

4年:70 名/185 名(37.8%)

3年:75 名/183 名(41.0%)

2年:108 名/198 名(54.5%)

1年:91 名/167 名(54.5%)

その他:1 名/14 名(7.1%)

全学年:345 名/748 名(46.1%)

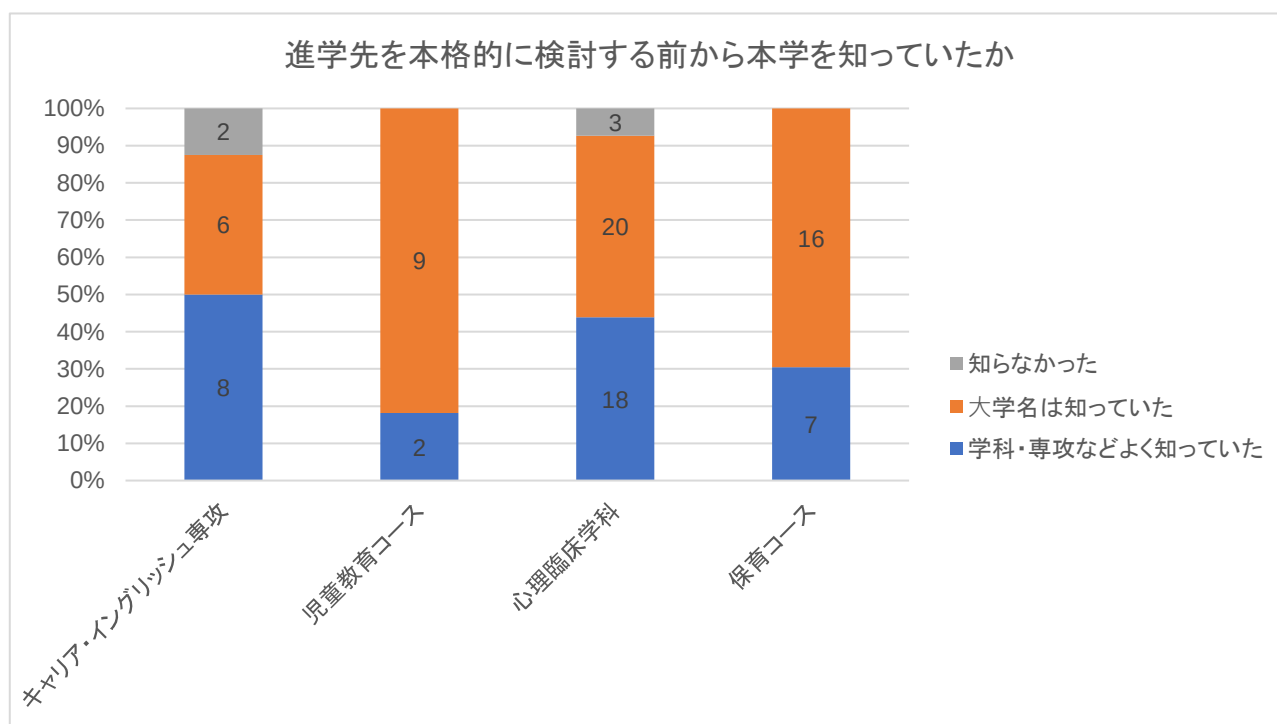
《分析方法》

回答データの基本集計として、在学生全体、学年ごと、学科・専攻・コースごとに人数、人数比率、平均値を算出しました。学年の分析にあたっては分析作業の便宜上、学籍番号の上二けたを元に学年を算出しているために実際の学年とは異なっている場合があります。

本学認知度

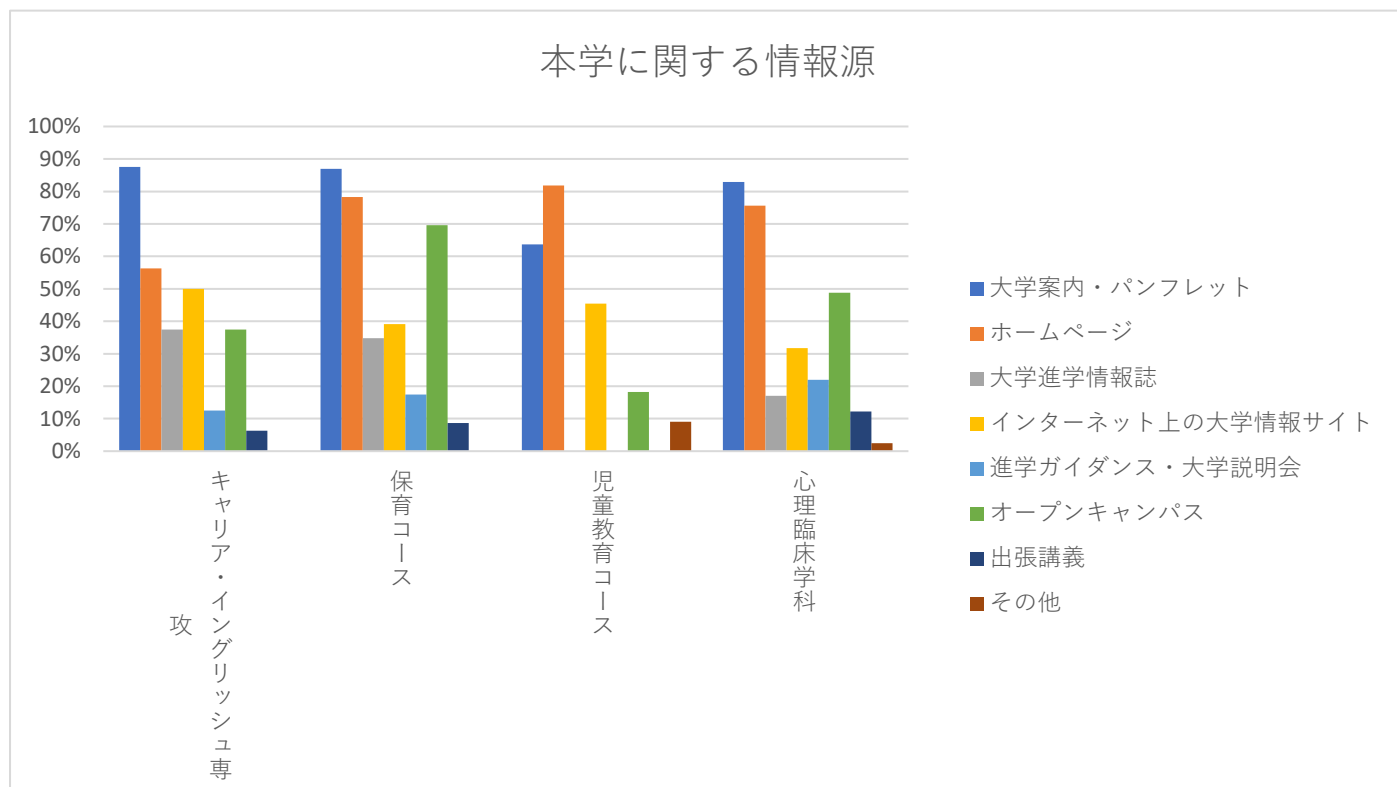
1年生を対象に、進学先を本格的に検討する前から本学のことをどの程度知っていたかを尋ねました。下図は、本学の認知度に関して「知らなかった」「大学名は知っていた」「学科・専攻などよく知っていた」の回答比率を積み上げ棒グラフによって表現したものです。棒グラフ内に表示された数値ラベルは回答人数を表します。学科・専攻のことまでよく理解していた割合は各学科・専攻によってまちまちですが、児童教育コースが若干低いようです。どの学科専攻においても「大学名は知っていた」「学科・専攻などよく知っていた」を含めた認知度は約90%以上に認知されているようです。

ただし、ここで示す認知度はあくまで入学した学生の回答から得たものですので、実際に世間一般の人々や大学受験を検討している高校生がどれほど本学を認知しているかを必ずしも反映していないことに注意なくてはなりません。



本学の情報源

1年生を対象に、本学への進学を検討するうえで役立った情報源は何かを尋ねました(複数回答可)。児童教育コースのみ大学案内・パンフレットから情報を得ていた入学生は70%を切りましたが、他の学科・専攻においては80%以上が大学案内・パンフレットを情報源として有益であるととらえていました。児童教育コースでは大学案内・パンフレットを上回る割合で有益であるとされたのはホームページでした。ホームページは他の学科・専攻でも大学案内・パンフレットに次ぐ割合で有益であると評価されています。オープンキャンパスやインターネット上の大学情報サイトも本学の情報源として利用されていることがうかがえます。

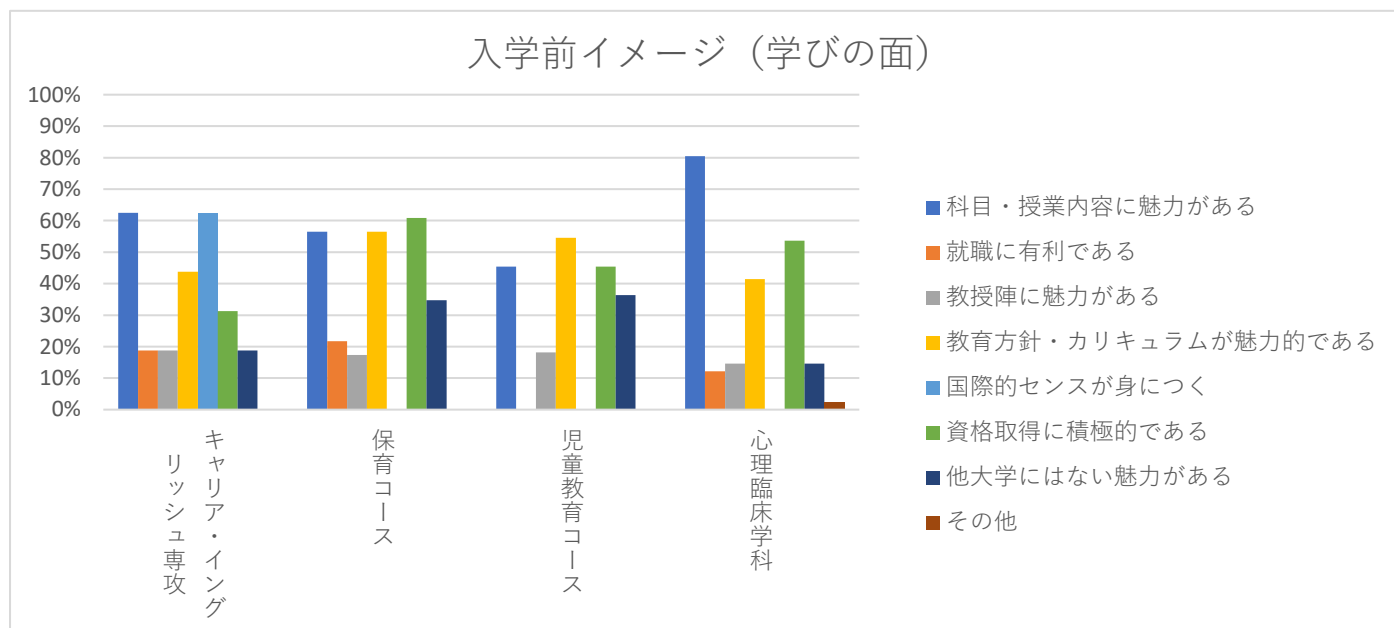


本学に対する入学前イメージ

1年生を対象に、入学前に本学に対してどのようなイメージをもっていたかについて「学びの面」と「その他の面」に分けて、該当項目を選択する形（複数選択可）で回答を収集しました。

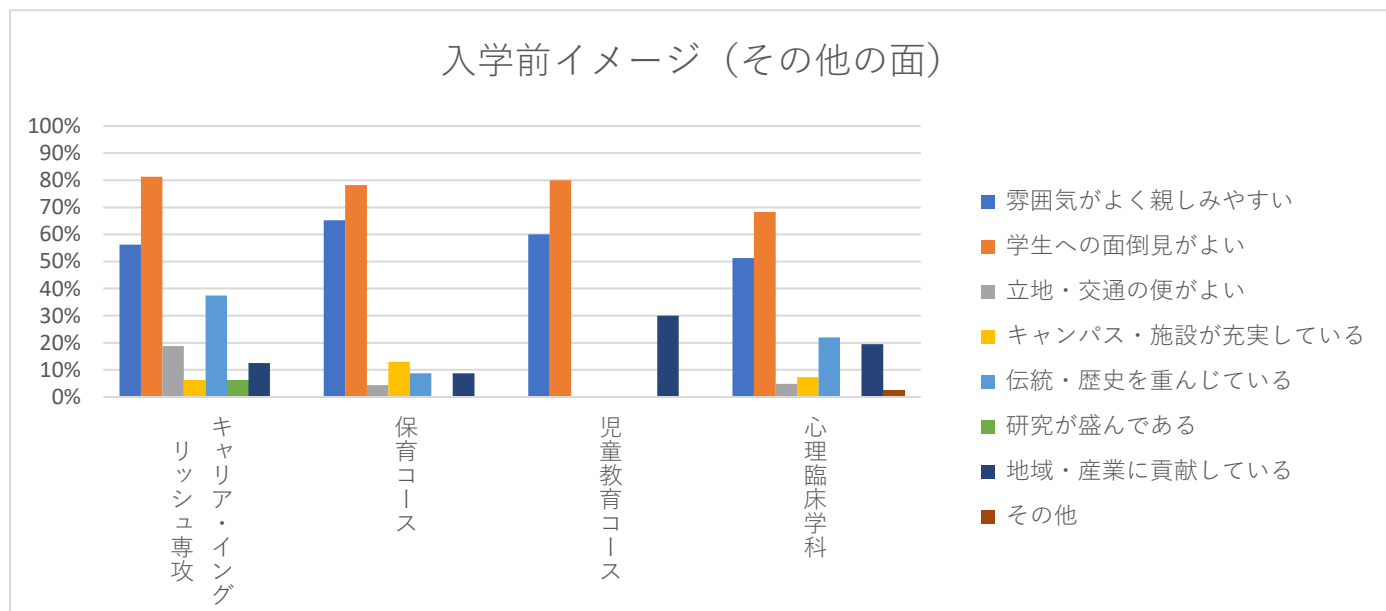
学びの面

学びの面に関しては、全体的に「科目・授業内容に魅力がある」「教育方針・カリキュラムが魅力的である」「資格取得に積極的である」というイメージを持たれているようです。キャリア・イングリッシュ専攻においては「国際的センスが身につく」が、心理臨床学科においては「科目・授業内容に魅力がある」が他の学科に比べて大きい比率で回答されており、本学を進学先として選ぶ上でもこの点は重要視されていたのではないかと推測されます。



その他の面

その他の面に関しては、全学科・専攻で「学生への面倒見がよい」「雰囲気がよく親しみやすい」という印象が強いようです。それ以外の項目「立地・交通の便がよい」「キャンパス・施設が充実している」「伝統・歴史を重んじている」「研究が盛んである」「地域・産業に貢献している」に関してはほとんどイメージを持たれていないようです。

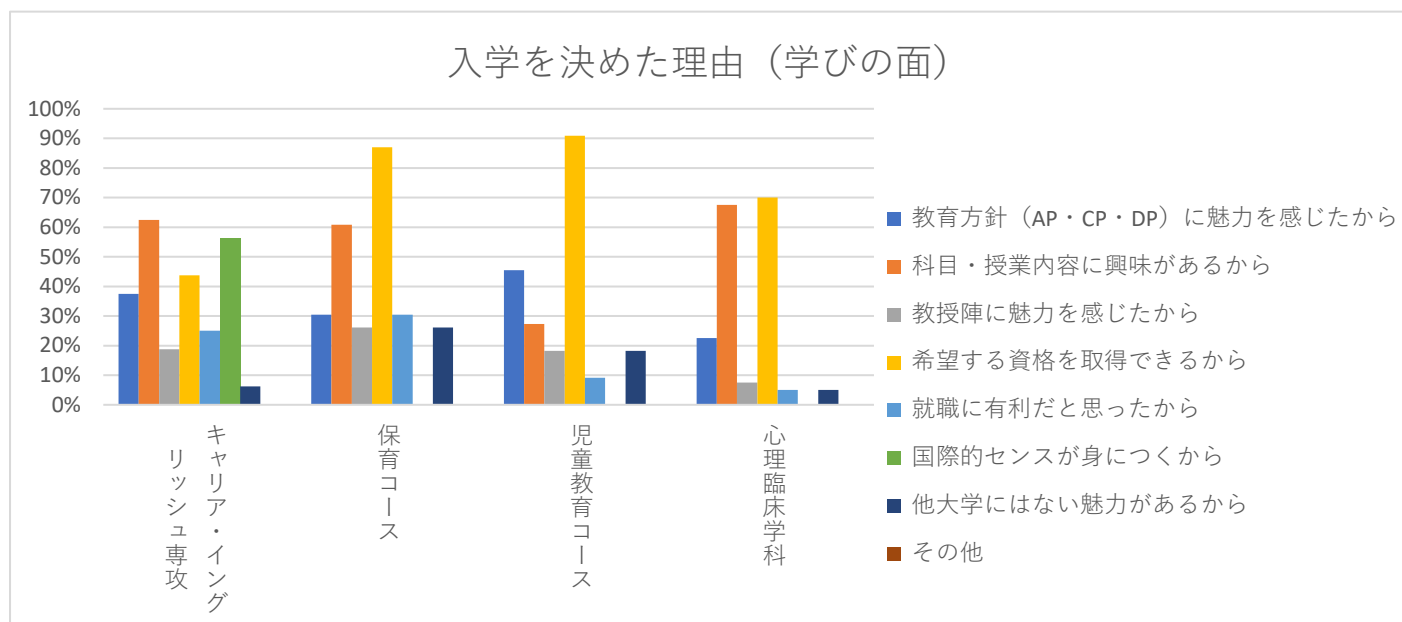


本学入学の理由

1年生を対象に、本学への入学を決めた理由について「学びの面」「学生生活の面」「その他の面」に分け項目を提示し複数回答可で選択するよう求めました。

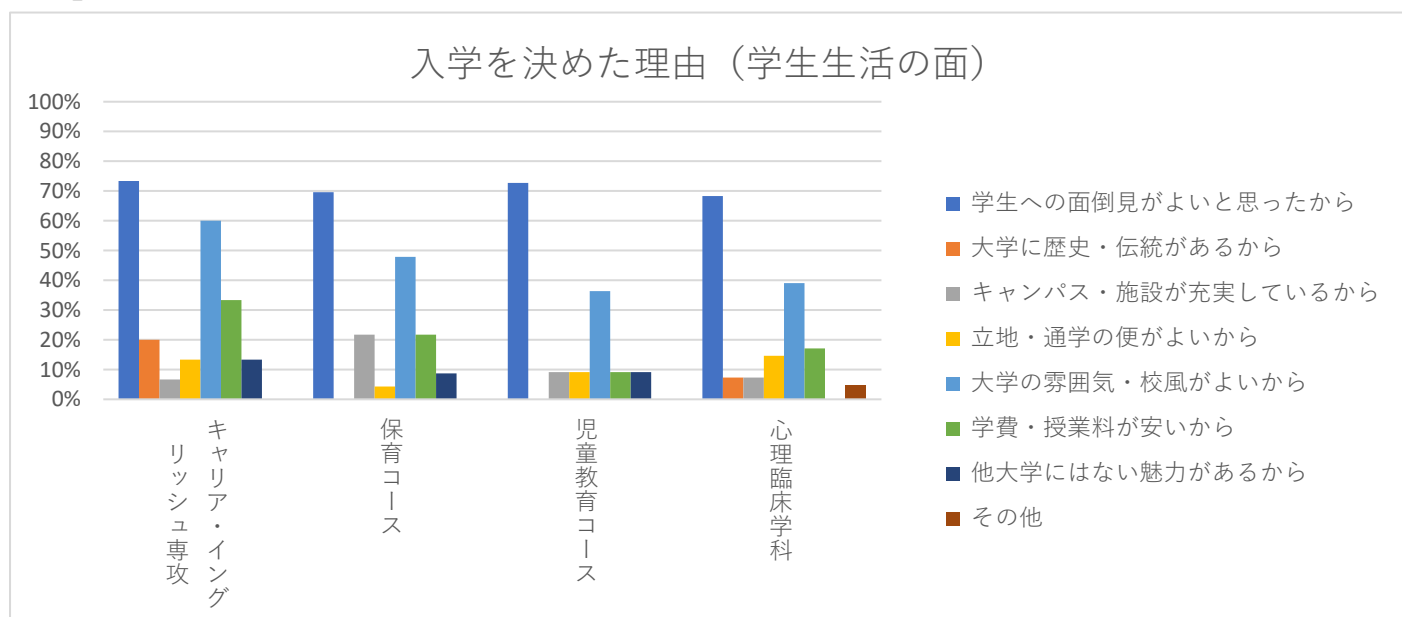
学びの面

学びの面に関しては「希望する資格を取得できるから」「科目・授業内容に魅力があるから」という回答の比率が全体的に高くでました。「教育方針（AP・CP・DP）に魅力を感じたから」の割合も比較的高く出ているようです。学科・専攻ごとの特徴としてはキャリア・イングリッシュ専攻で「国際的センスが身につくから」が高い割合で挙げられています。



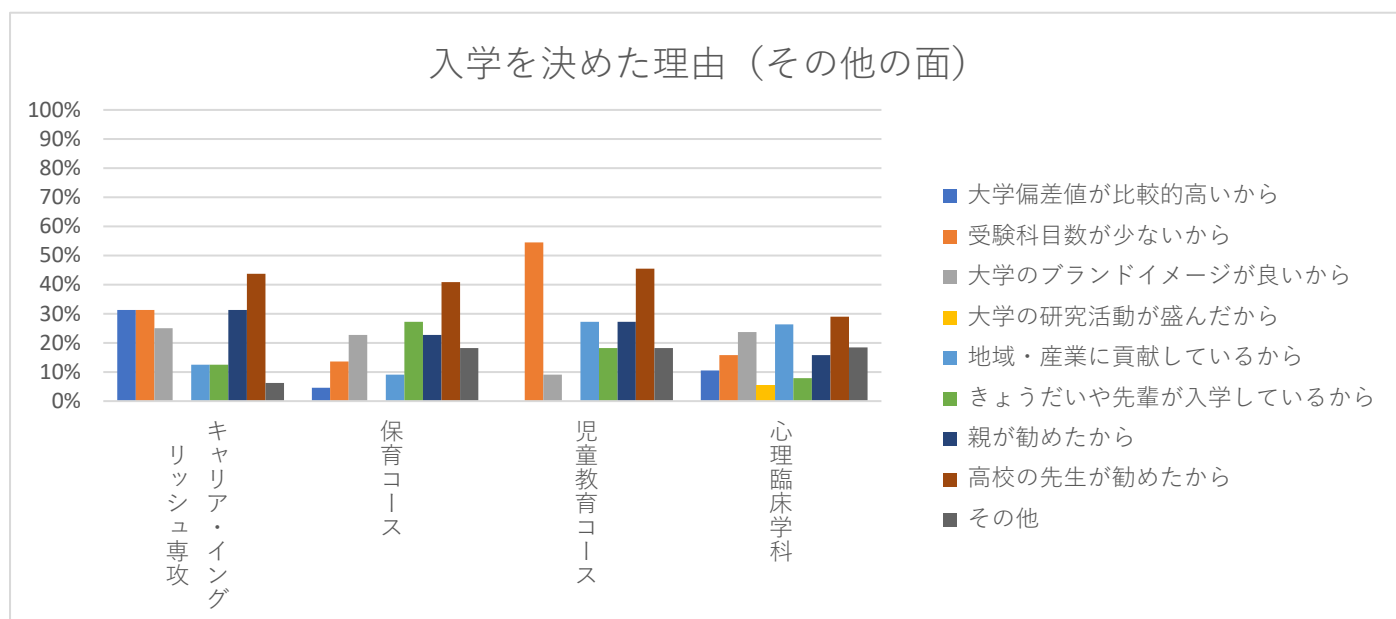
学生生活の面

学生生活の面に関しては、「学生への面倒見がよいと思ったから」「大学の雰囲気・校風がよいから」が高い割合で挙げられています。



その他の面

その他の面に関しては、どの学科・専攻においても「高校の先生が勧めたから」という理由が他の項目と比較して高い割合で挙げられています。児童教育コースでは「受験科目数が少ないから」という項目が目立っています。

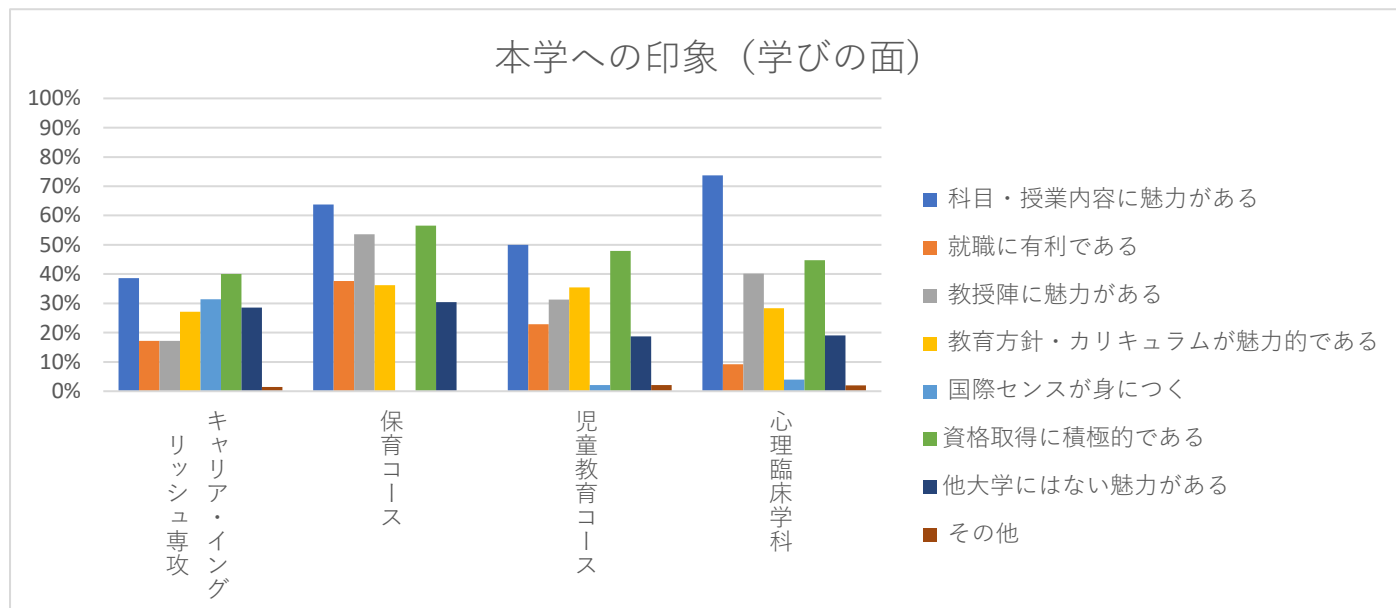


本学に対するイメージ(入学後)

本学に入学して、現在持っている印象を全学年に対して、「学びの面」「その他の面」に分けて、該当項目を選択する形(複数選択可)で回答を収集しました。

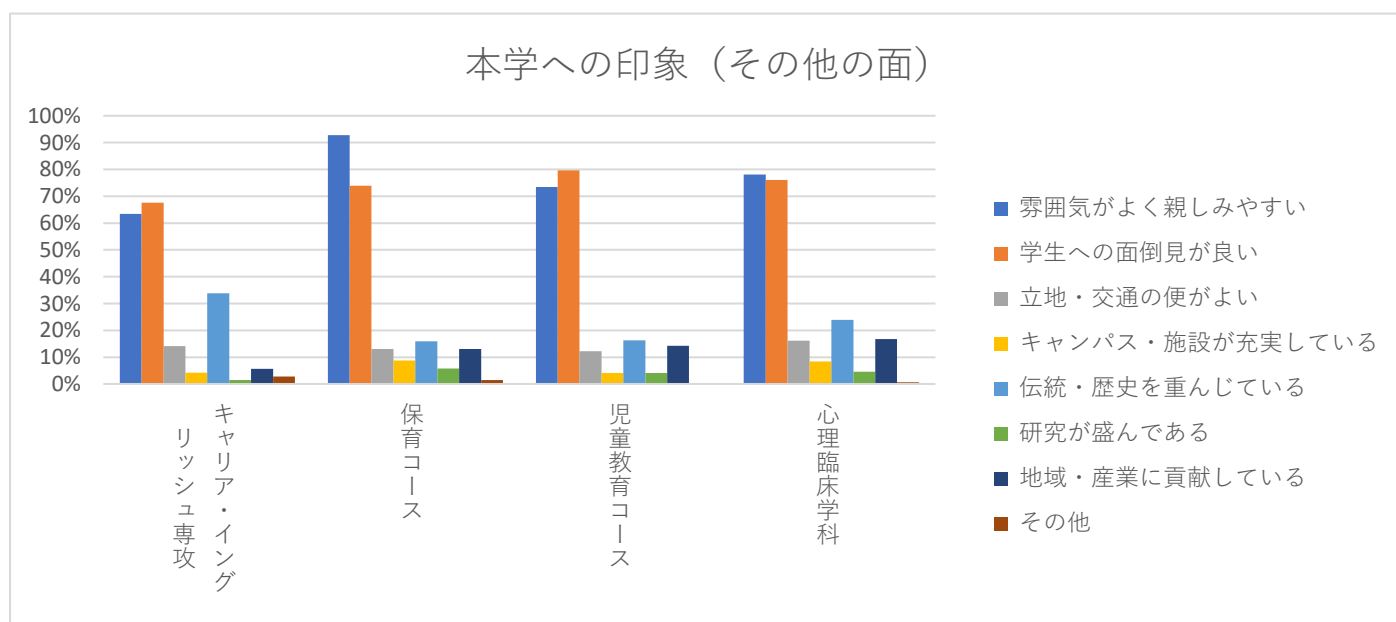
学びの面

学びの面に関しては、入学前に持っていたイメージである「科目・授業内容に魅力がある」「資格取得に積極的である」「教育方針カリキュラムが魅力的である」という項目は多少のポイントの減少はみられるものの継続して印象を持たれているようです。ほとんどの学科・専攻において「教授陣に魅力がある」の割合が増えており、入学前には関わることのなかった教授陣と入学後に関わり始めたことで新たに抱いた印象であると思われます。



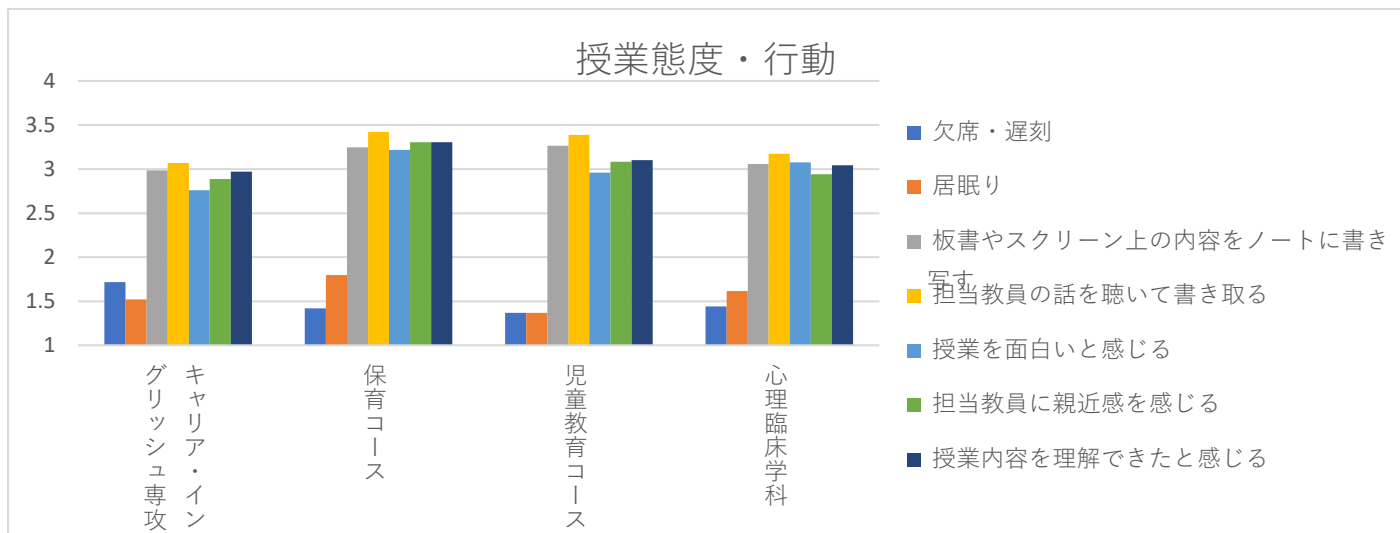
その他の面

その他の面に関しては、「雰囲気がよく親しみやすい」「学生への面倒見がよい」は継続して高い割合を維持しています。特に「雰囲気よく親しみやすい」の項目に関してはすべての学科・専攻で割合が増加しており、本学は学生の親しみやすい雰囲気づくりに関して一定の成果を出せていると考えられます。

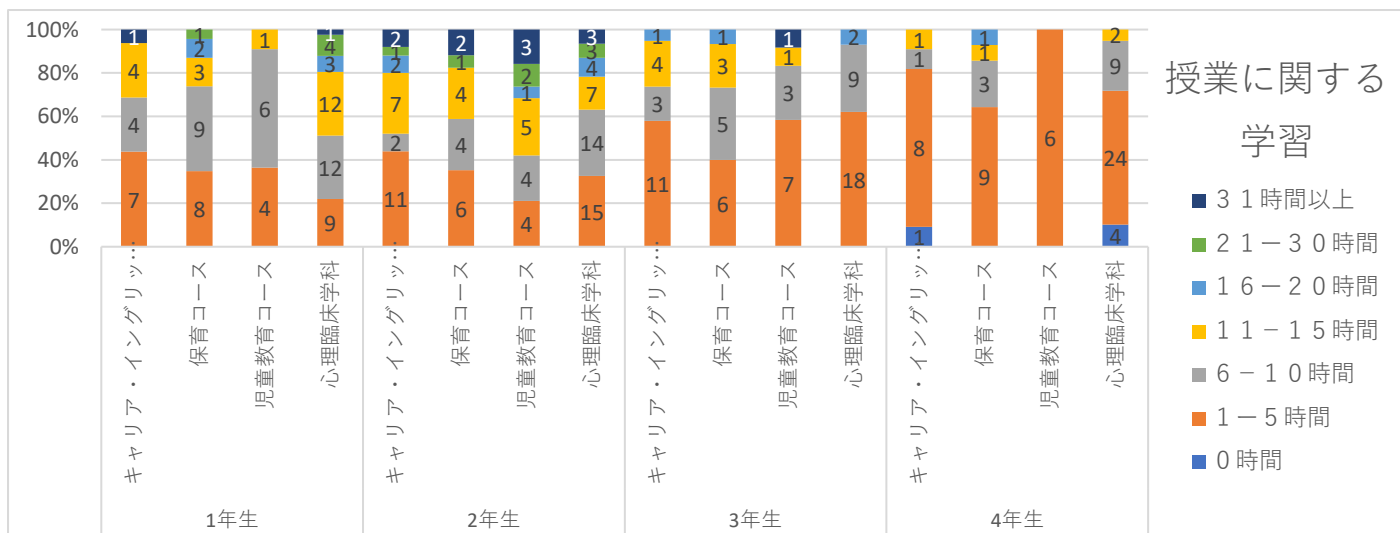
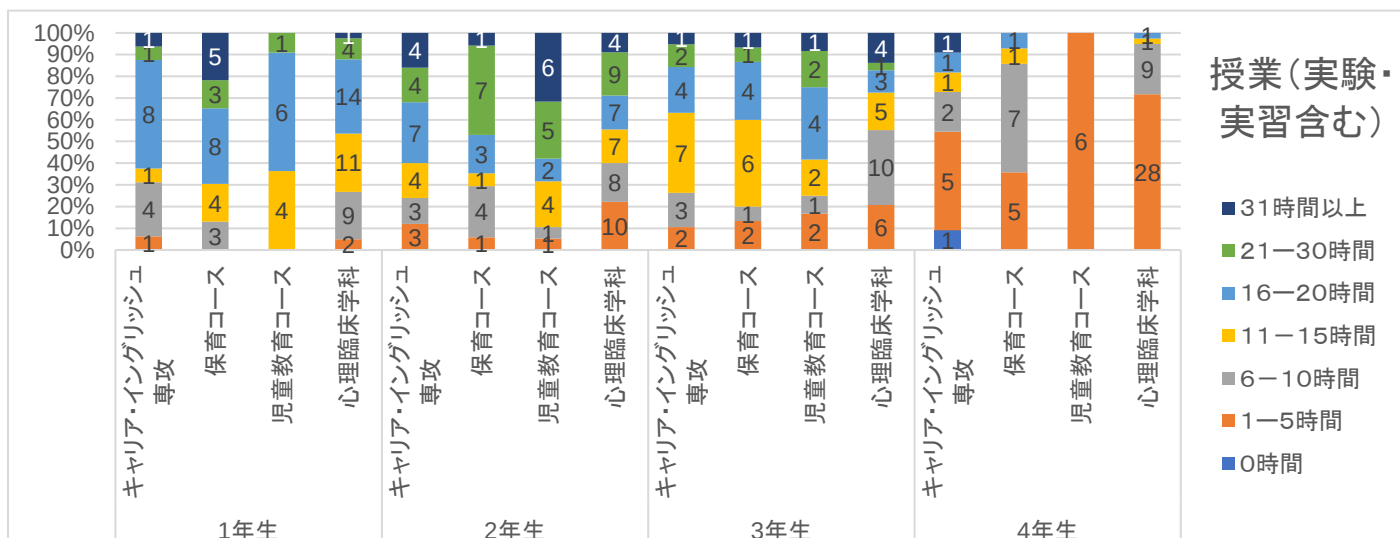


学修態度・行動

2020年度の授業態度・行動に関して「ほとんどなかった」「あまりなかった」「まああった」「かなりあった」の中からあてはまるものを一つだけ選択させて、それぞれを1,2,3,4と点数化して全学年での平均値を集計しました。項目「板書やスクリーン上の内容をノートに書き写す」「担当教員の話を書いて書き取る」「授業を面白いと感じる」「担当教員に親近感を感じる」「授業内容を理解できたと感じる」は約3ポイント付近で「まああった」程度の評価となっています。



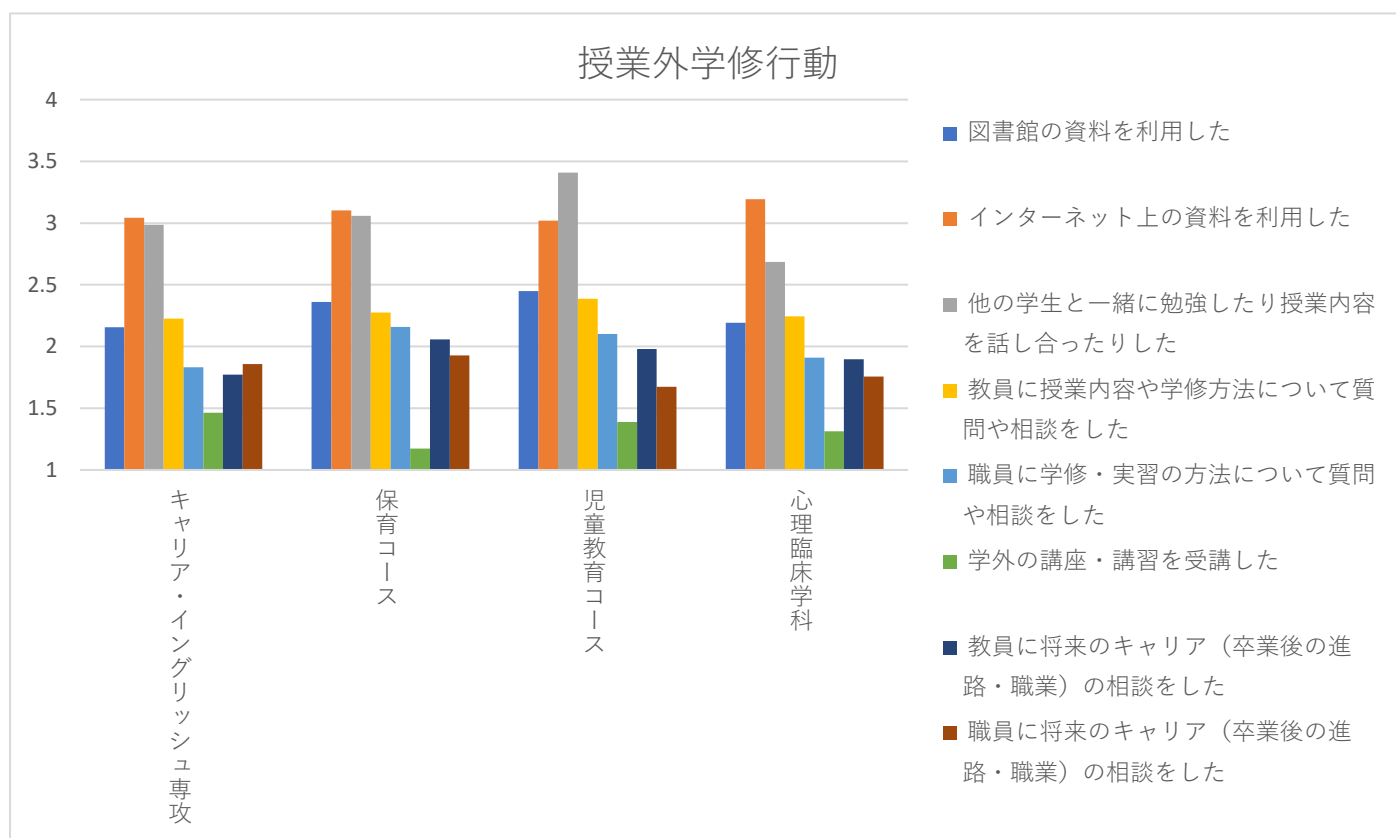
授業への出席時間と授業に関する学習にかけた一週間あたりの時間は以下のとおりです。



授業以外の学修活動

授業以外での学修活動に関して「ほとんどしなかった」「あまりしなかった」「まあまあした」「かなりした」の中からあてはまるものを一つだけ選択させて、それぞれを 1,2,3,4 と点数化して全学年での平均値を集計しました。

授業以外での学修行動は「インターネット上の資料を利用した」と「他の学生と一緒に勉強したり授業内容を話し合ったりした」が他の項目と比べて高いようです。インターネット上で資料を調べたり、他の学生と話し合ったりすることは教員や職員に対して質問や相談をするよりも手軽で気安いという側面があるためかと思われます。また、「図書館の資料を利用した」が「インターネット上の資料を利用した」よりも 1 ポイント近く低い特徴がありますが、これも図書館に出向いて資料を紙で探すよりもインターネット上で電子的に検索する方が手軽であるためでしょうか。

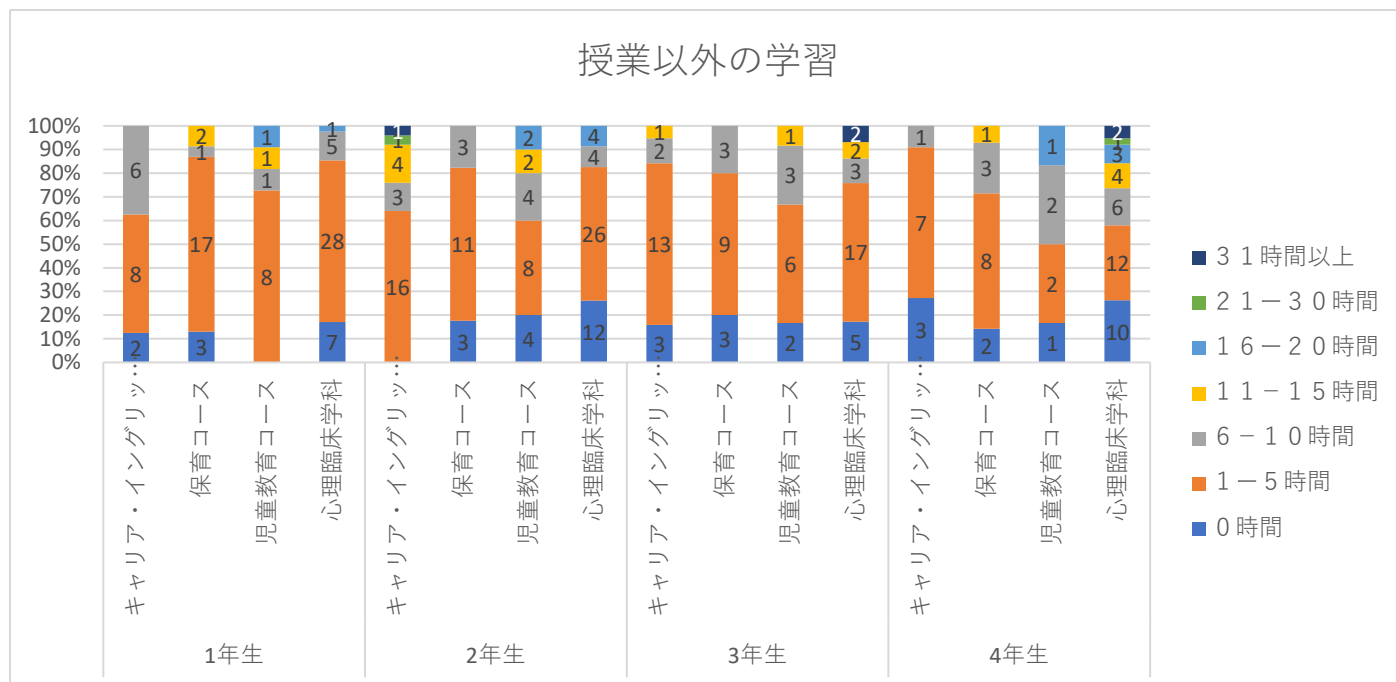


授業以外の活動時間

授業以外の活動時間は一週間あたり平均何時間か、「0 時間」「1-5 時間」「6-10 時間」「11-15 時間」「16-20 時間」「21-30 時間」「31 時間以上」から選択する形式で回答を集計しました。

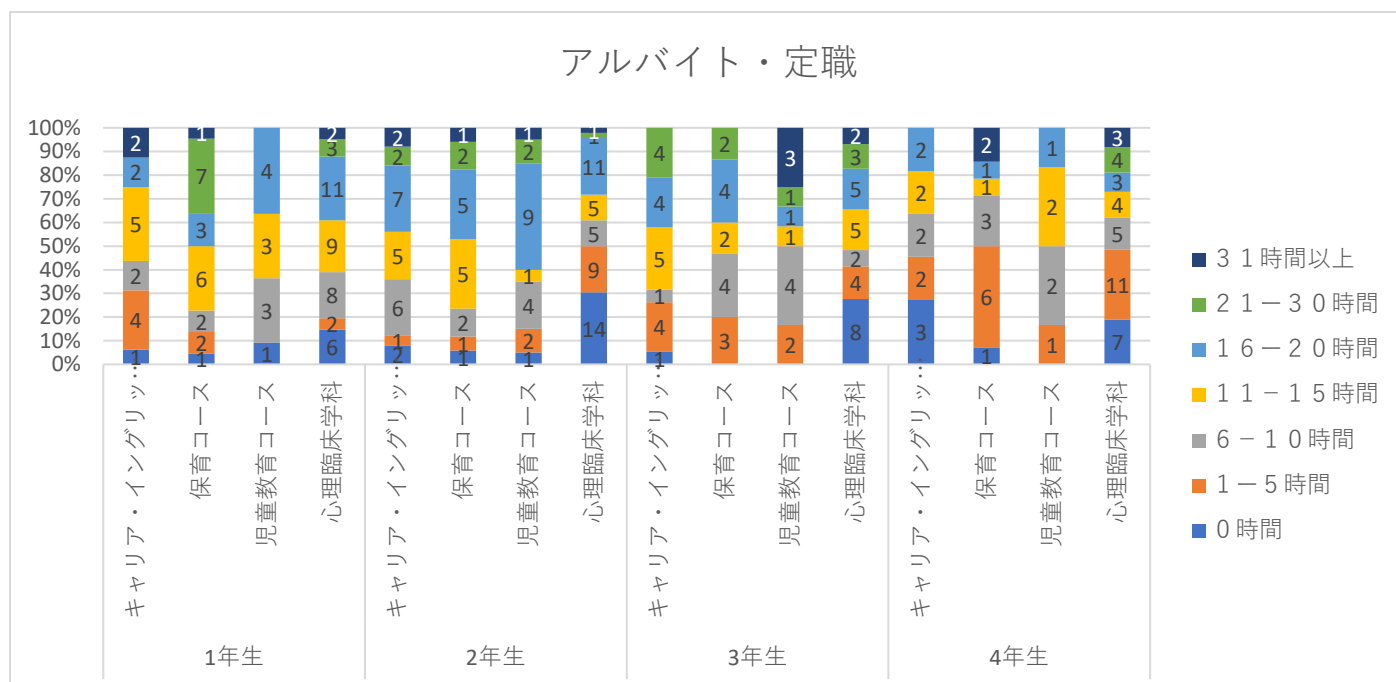
授業以外の学習時間

授業以外の学習時間は以下の図のようになりました。「1-5 時間」が一番多く続いて「6-10 時間」または「0 時間」が多くなります。多くの学年や学科専攻で授業に関する学習時間が長い傾向にありますが、授業の学習に加えて授業以外の学習をする余裕がとれないのかもしれません。



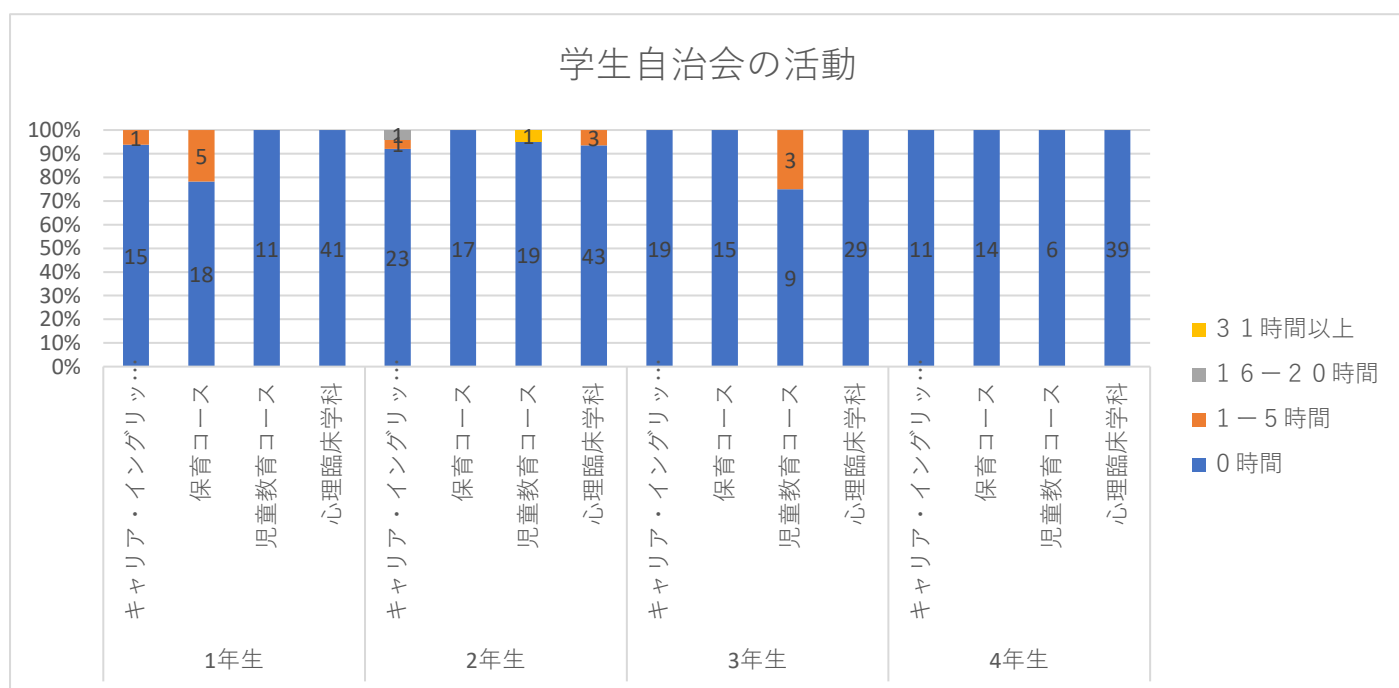
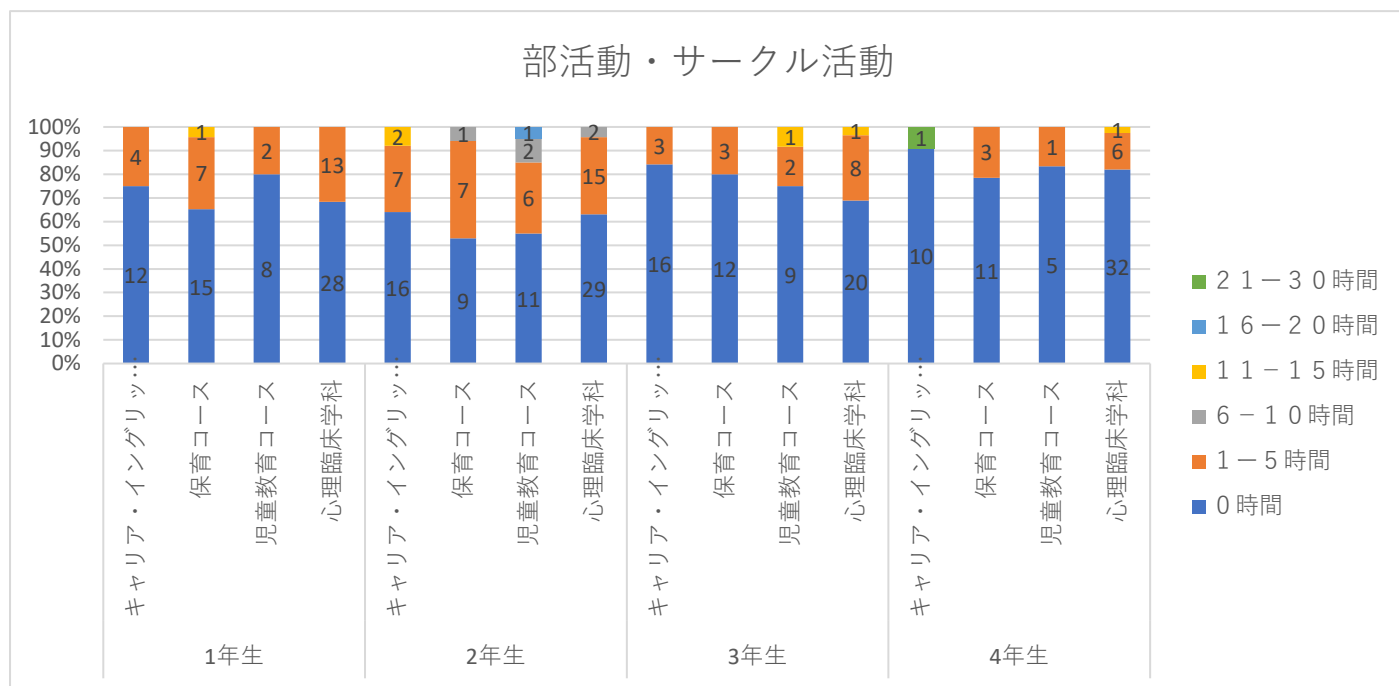
アルバイト・定職にかけている時間

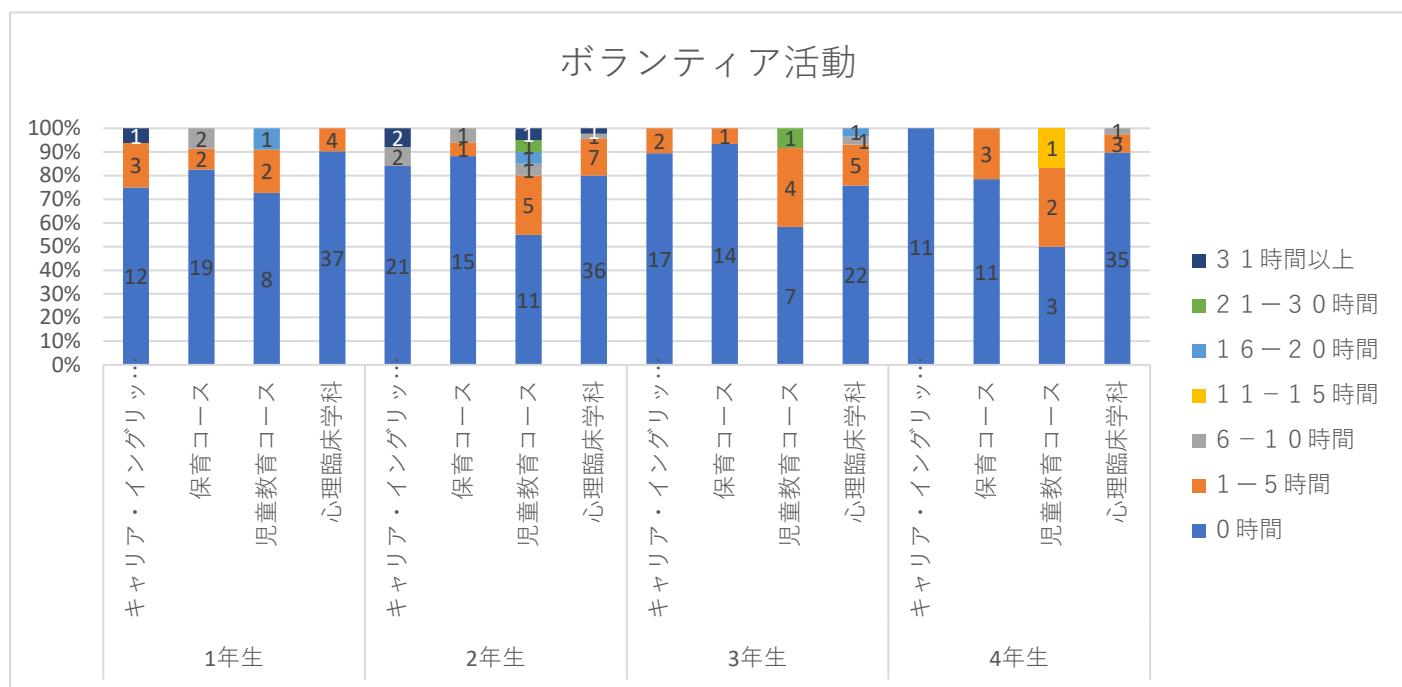
アルバイト・定職にかけている時間は以下のように分布しています。アルバイトが0時間の学生は全体では10%程度しかおらず、多くの学生が何かしらのアルバイトをしているようです。心理臨床学科は他の学科・専攻・コースと比較してアルバイトをしている学生が少ないようです。



部活動・サークル活動，学生自治会の活動，ボランティア活動にかけている時間

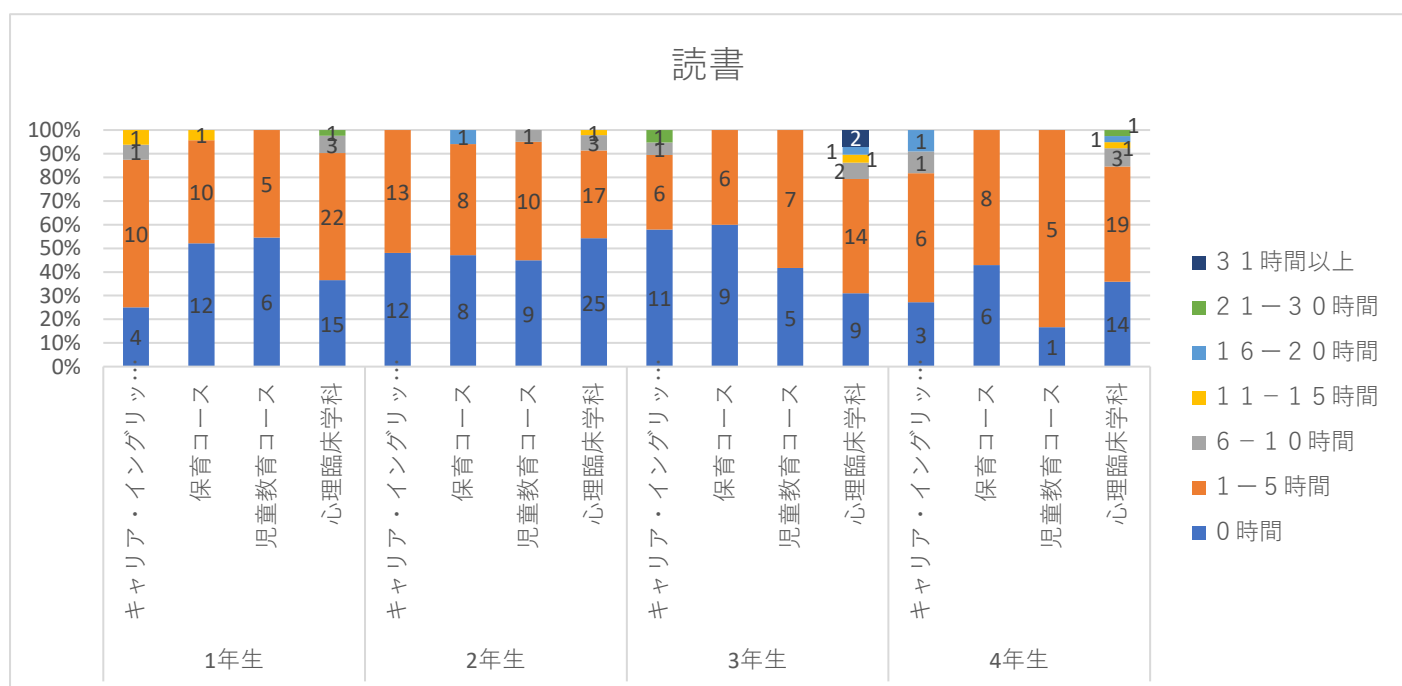
部活・サークル参加状況，自治会参加状況，ボランティア参加状況は以下の図のとおりです。児童教育コースが全学年を通してボランティア活動をしている学生の割合が多いようです。





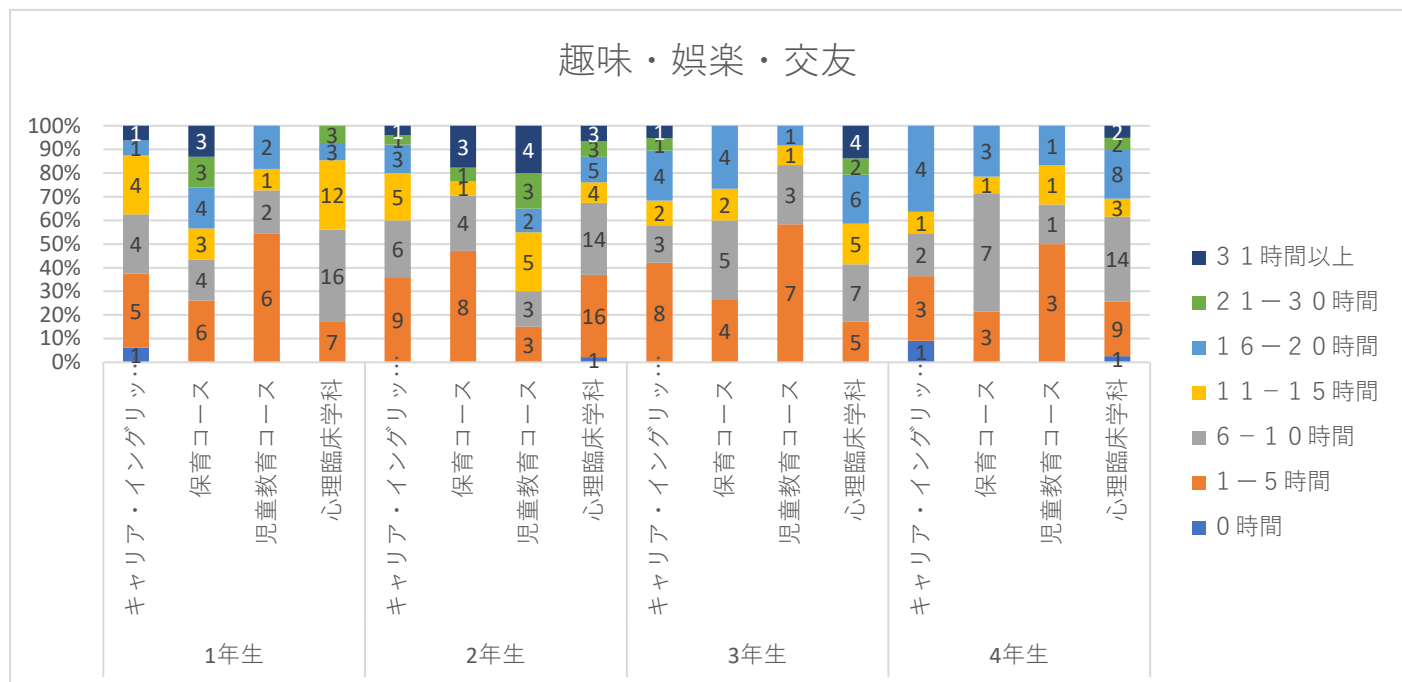
読書時間

読書をする学生の割合は各学年、各学科専攻コースでバラつきがありますが、学年ごと、または学科・専攻・コースごとに集計すると約 50～65%程度です。



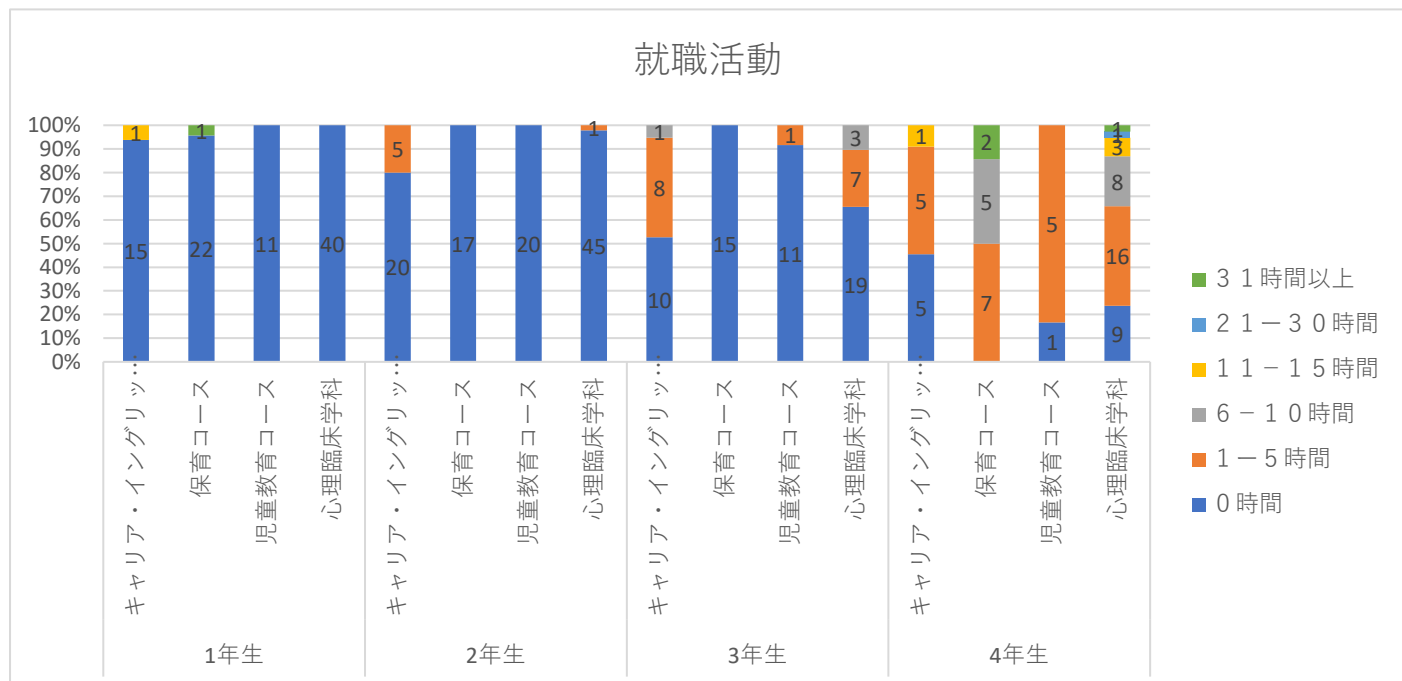
趣味・娯楽・交友にかける時間

趣味・娯楽・交友にかける時間は以下ようになりました。



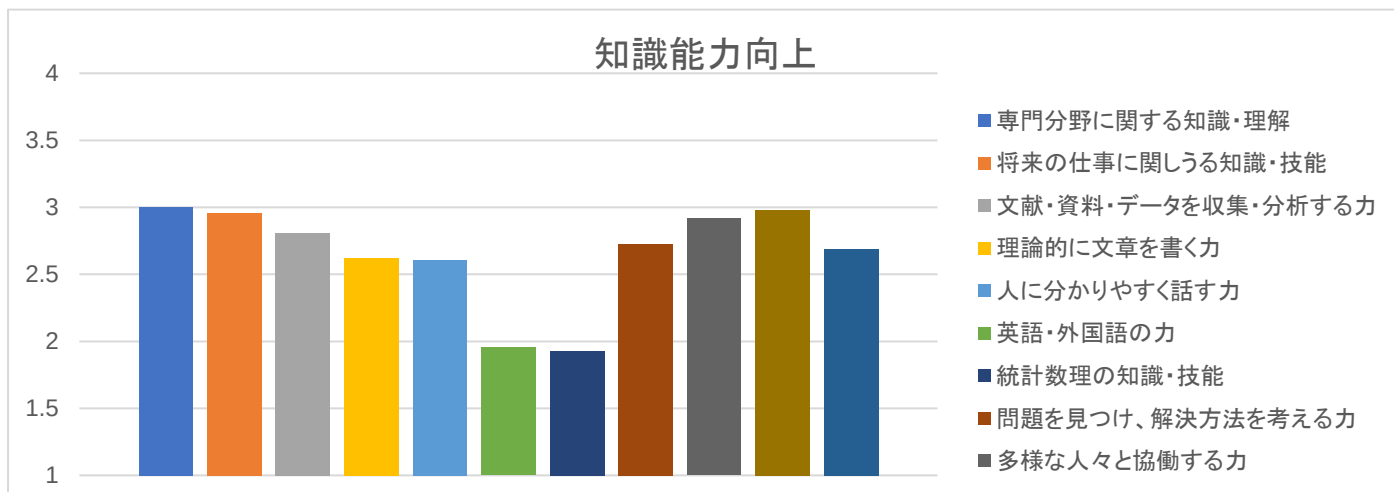
就職活動にける時間

就職活動にける時間は以下になっています。



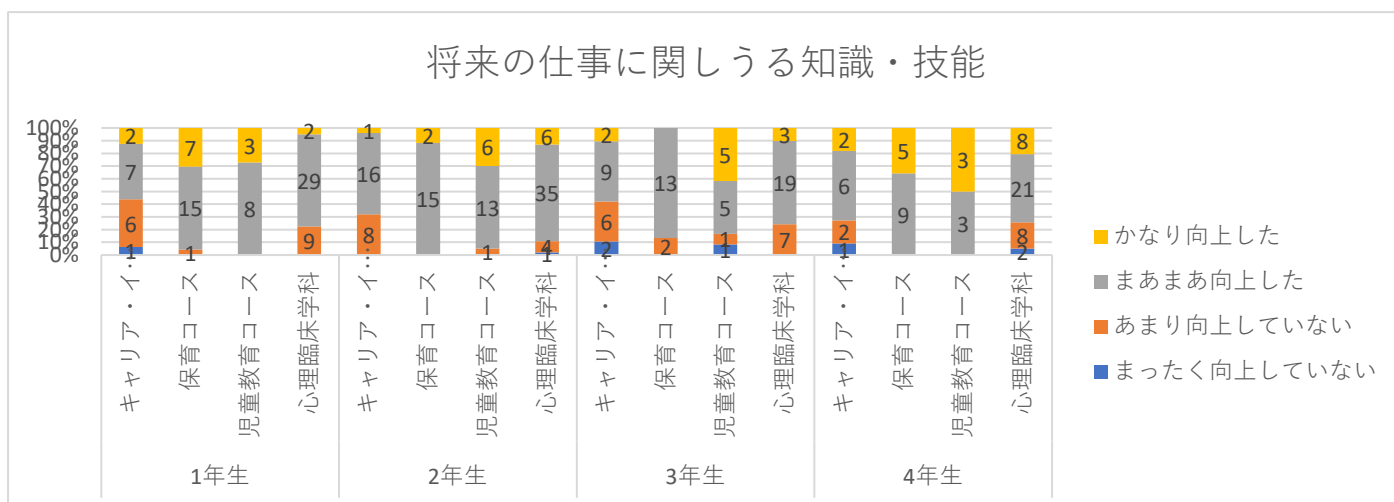
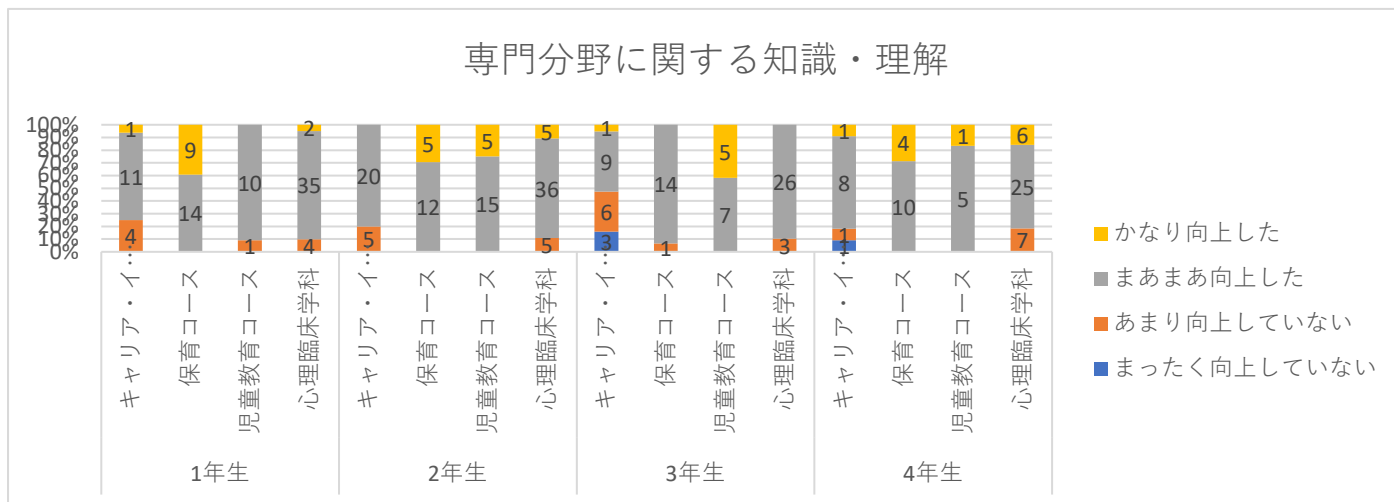
知識・能力向上

2020 年度中に自分の知識や能力はどの程度向上したと感じるかについて「1. 全く向上していない」「2. あまり向上していない」「3. まあまあ向上した」「4. かなり向上した」の 4 件法で尋ねました。回答者における平均値は以下になりました。「英語・外国語の力」と「統計数理の知識・技能」は他の項目と異なり、より専門的で学修する機会が限定されていることから平均値が低く出ていると考えられます。その他の項目は 2.5 ポイントを上回っており、全体的には知識や能力が向上したと感じられているようです。

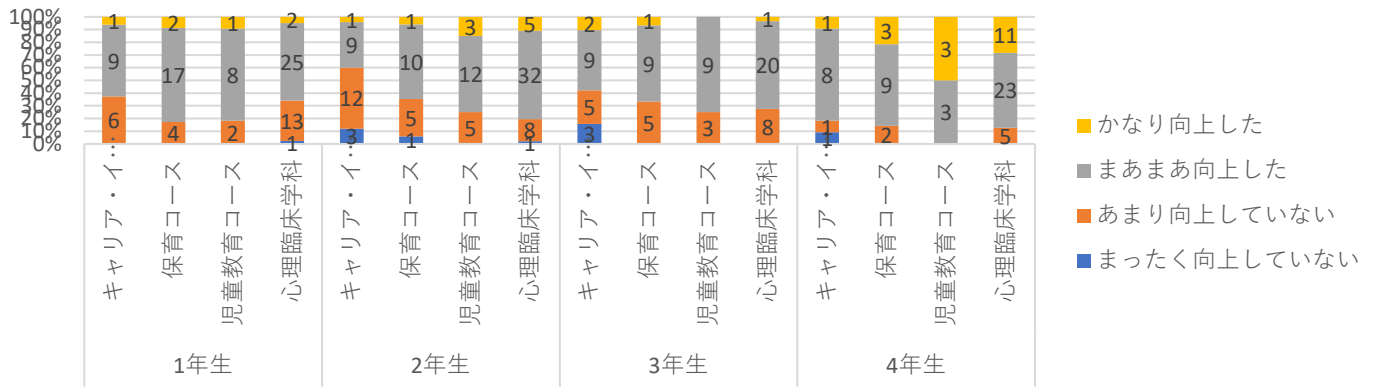


各学年および各学科・専攻・コースごと

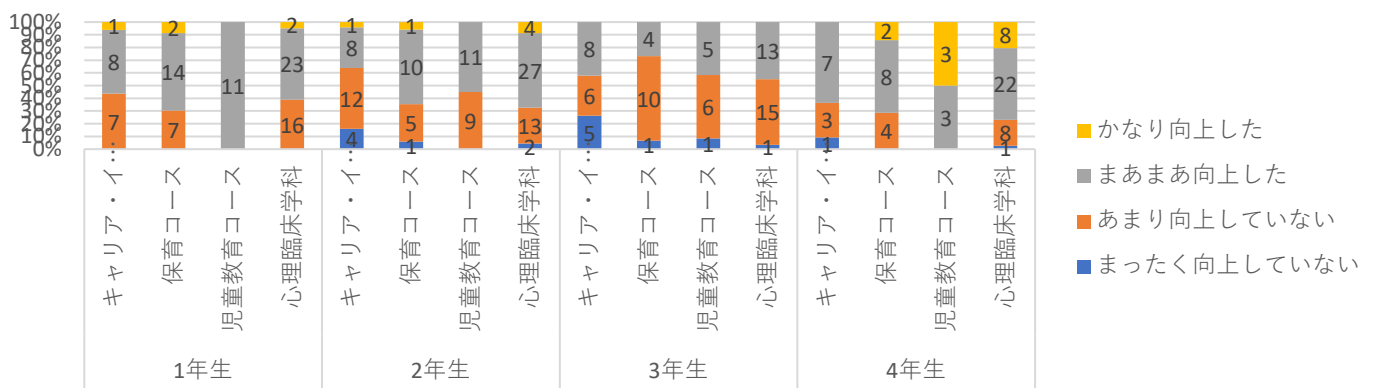
各学年および各学科・専攻・コースの各項目の分布は下図のとおりです。



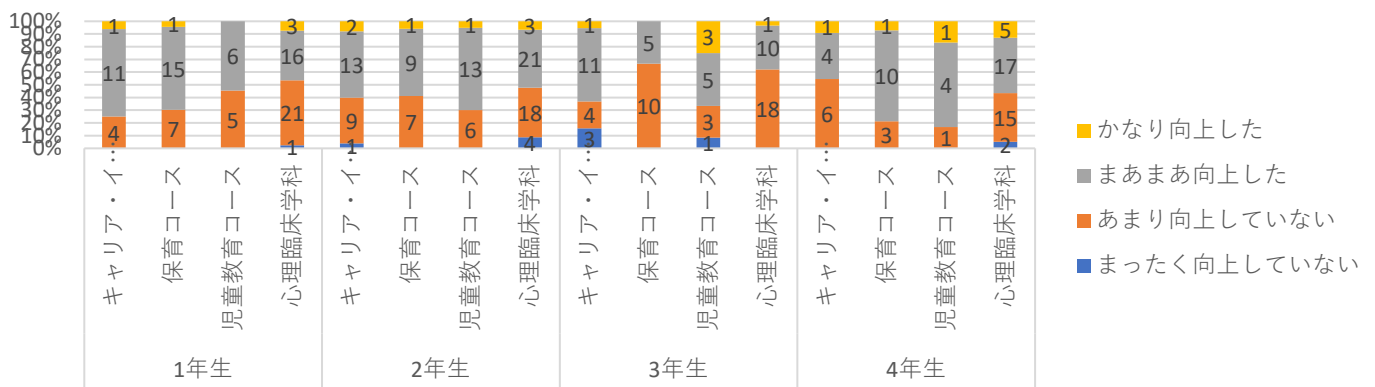
文献・資料・データを収集・分析する力



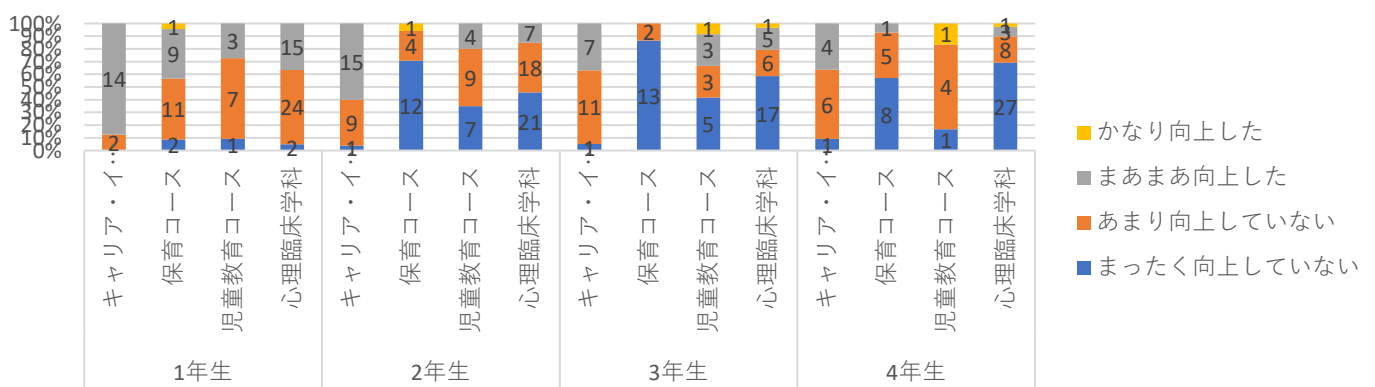
理論的に文章を書く力



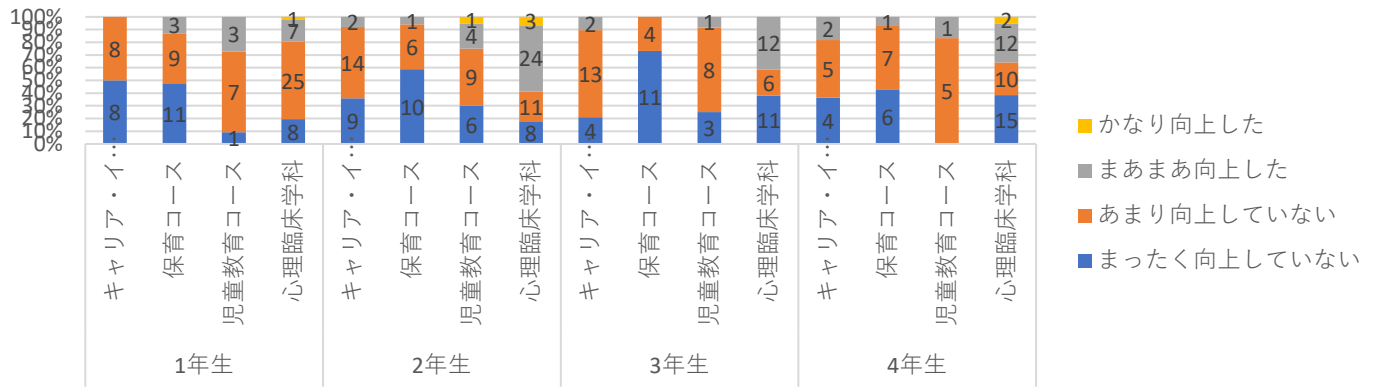
人にわかりやすく話す力



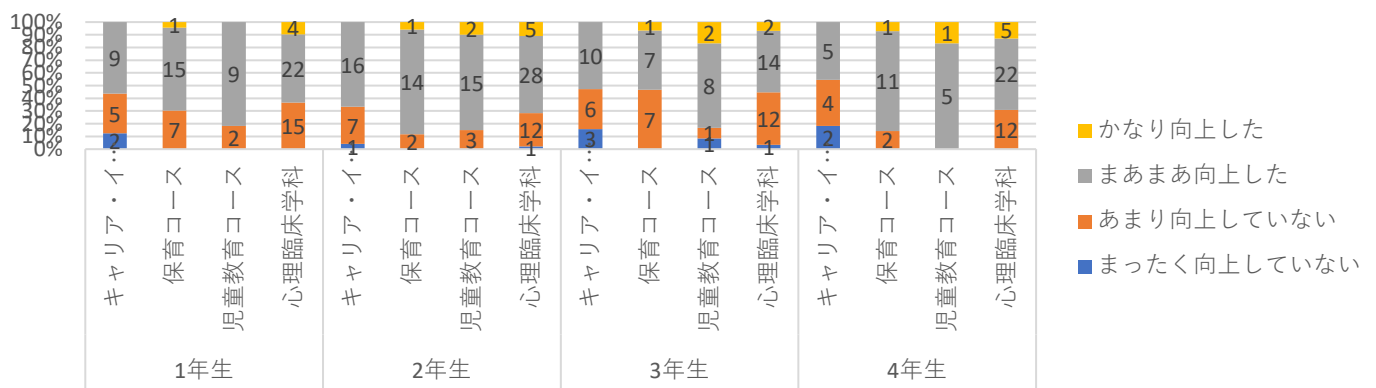
英語・外国語の力



統計数理の知識・技能



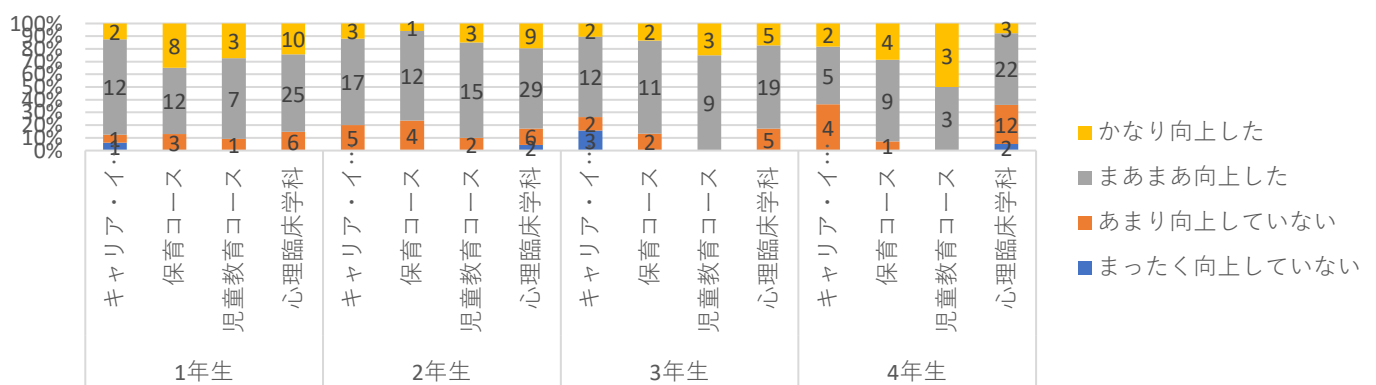
問題を見つけ、解決方法を考える力



多様な人々と協働する力



幅広い知識・ものの見方



異なる文化に関する知識・理解

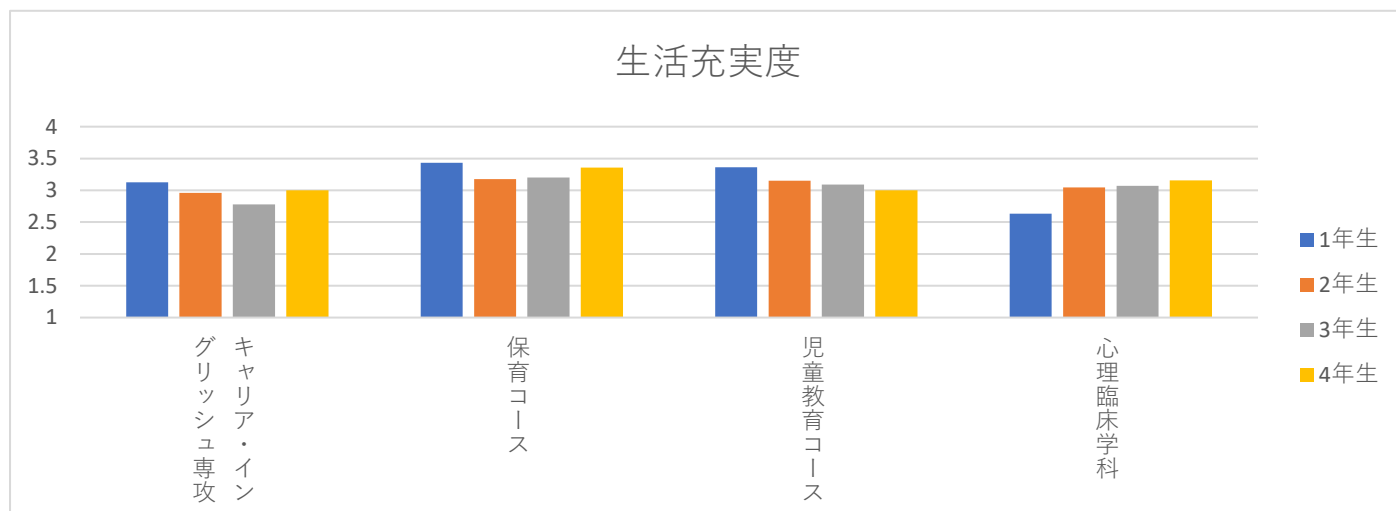


学生生活充実感および教育内容・施設・サービスに対する満足感

学生生活充実度

2020 年度も本学での学生生活にどの程度充実感があるかを、「1. まったく充実していない」「2. あまり充実していない」「3. まあまあ充実している」「4. とても充実している」の 4 件法で尋ねました。各学科・専攻・コースの学年ごとの生活充実度の平均値は以下の通りです。

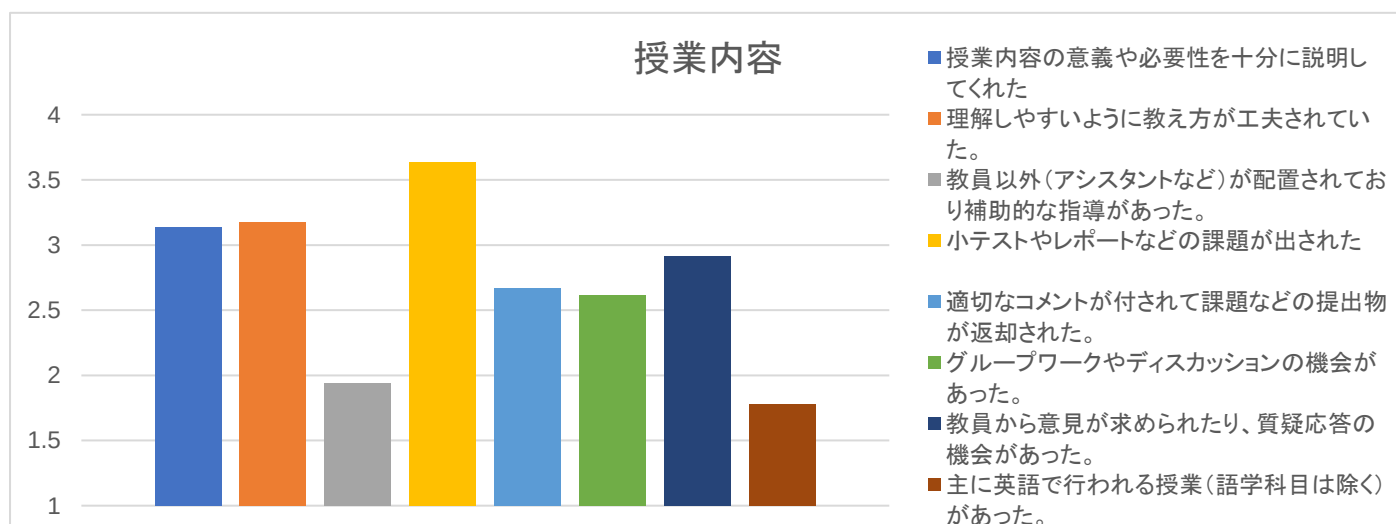
全ての学年および学科・専攻・コースで 2.5 ポイントは越えており、またほとんどの学年・学科・専攻・コースで「まあまあ充実している」に相当する 3 ポイントを超えており、本学学生はおおむね充実した学生生活を送っていると言えます。



授業内容

本学での授業において各項目をどれくらいの頻度で経験したのかを「1. ほとんどなかった」「2. あまりなかった」「3. ある程度あった」「4. よくあった」の 4 件法で尋ねました。各項目の回答者数に対する平均値を以下に図で示します。

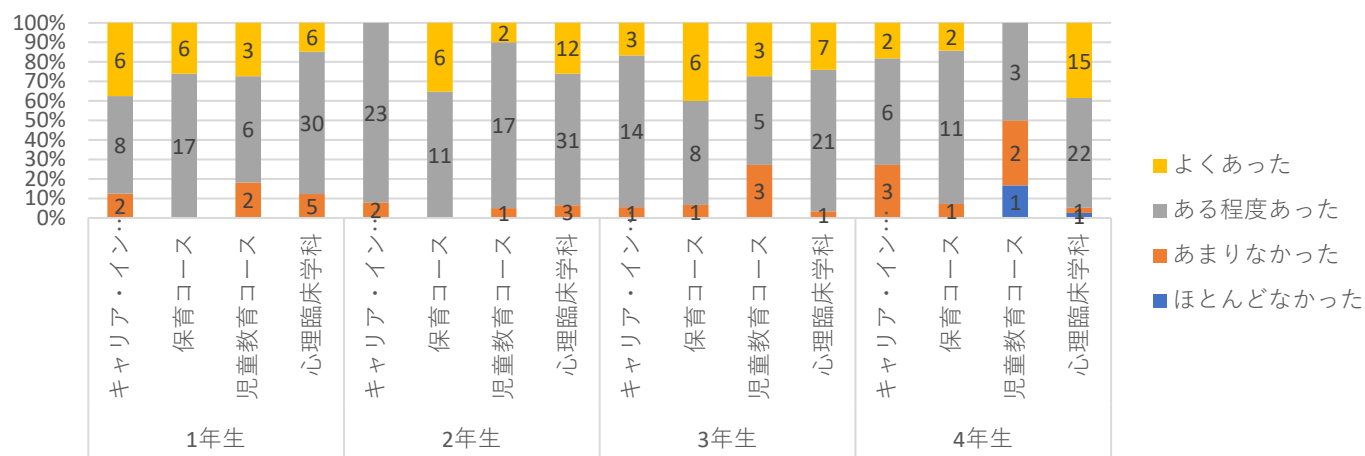
「授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた」「理解しやすいように教え方が工夫されていた。」が「ある程度あった」の 3 ポイントを上回っており、教員の授業に対する真摯な姿勢が学生にも感じとってもらえたことがうかがえます。一方で「教員以外(アシスタントなど)が配置されており補助的な指導があった。」「主に英語で行われる授業(語学科目は除く)」は 2 ポイント以下で「あまりなかった」と判断されています。



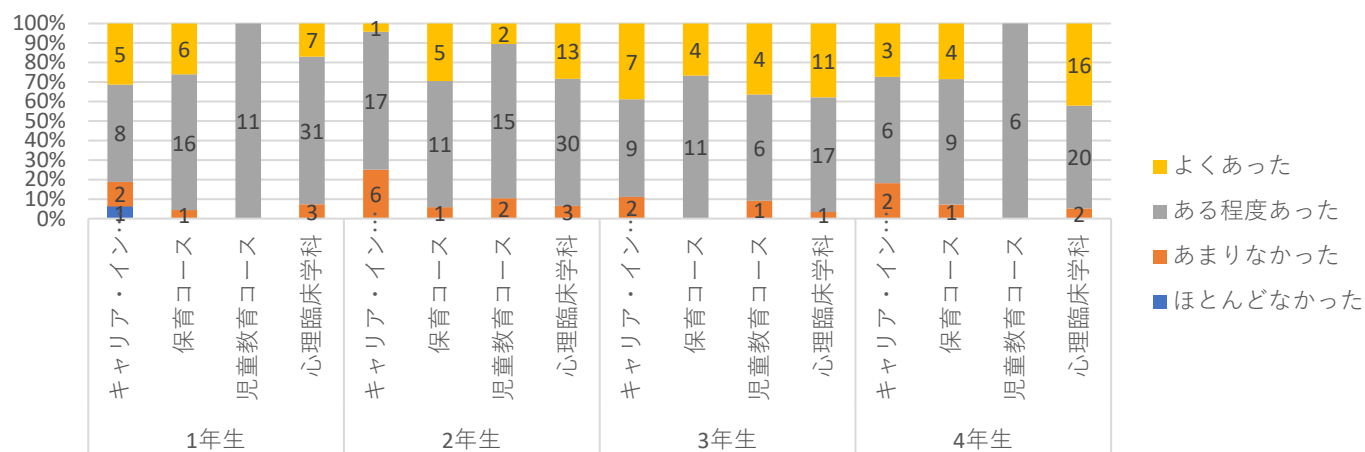
各学年・学科・専攻・コースごとの回答（授業内容）

各学年・学科・専攻・コースごとの回答の分布を以下に示します。

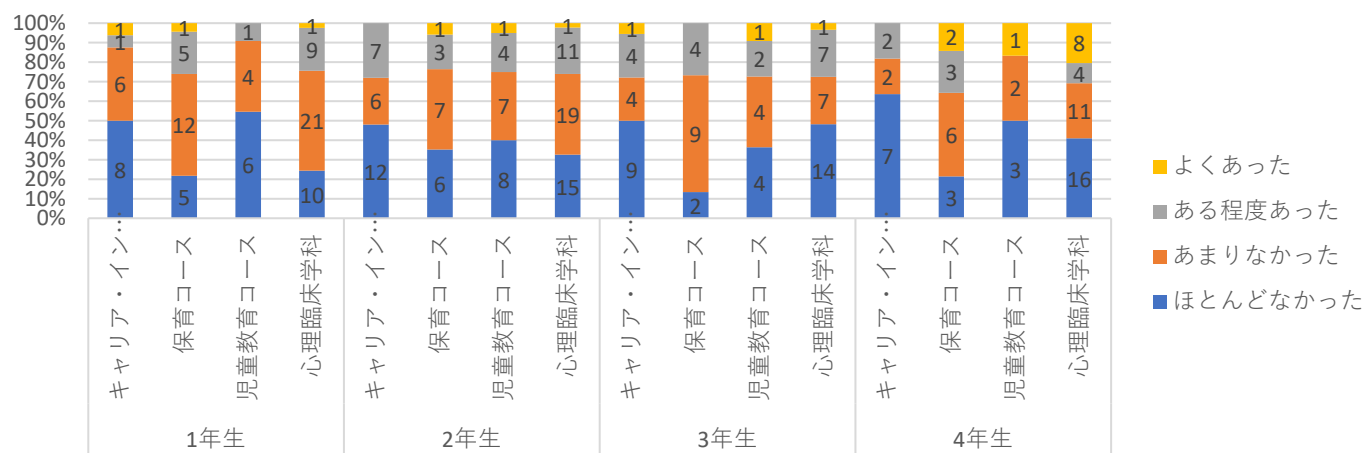
授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた



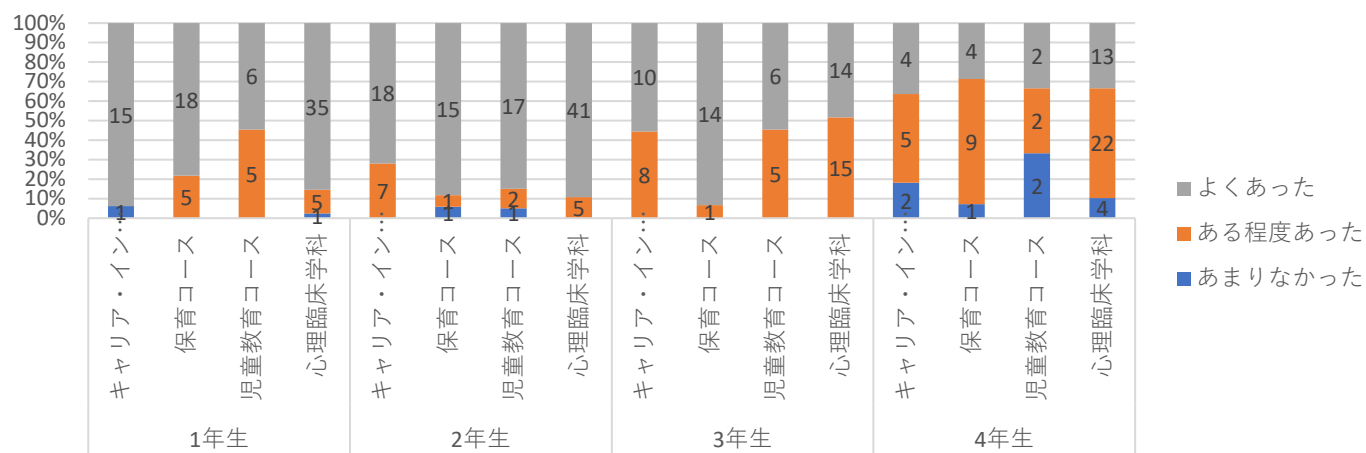
理解しやすいように教え方が工夫されていた。



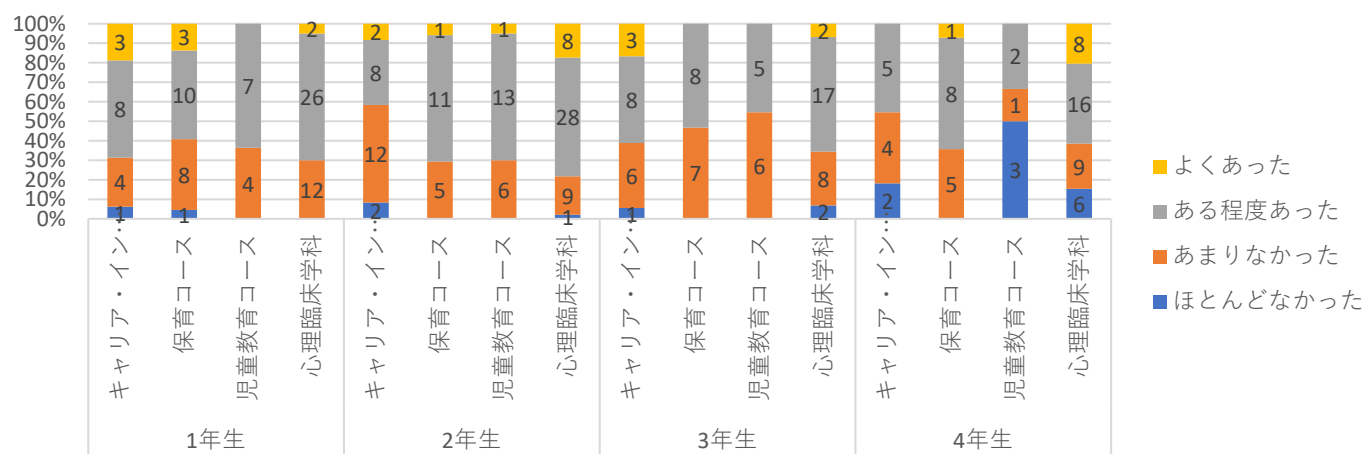
アシスタンスなど教員以外からの補助的な指導があった



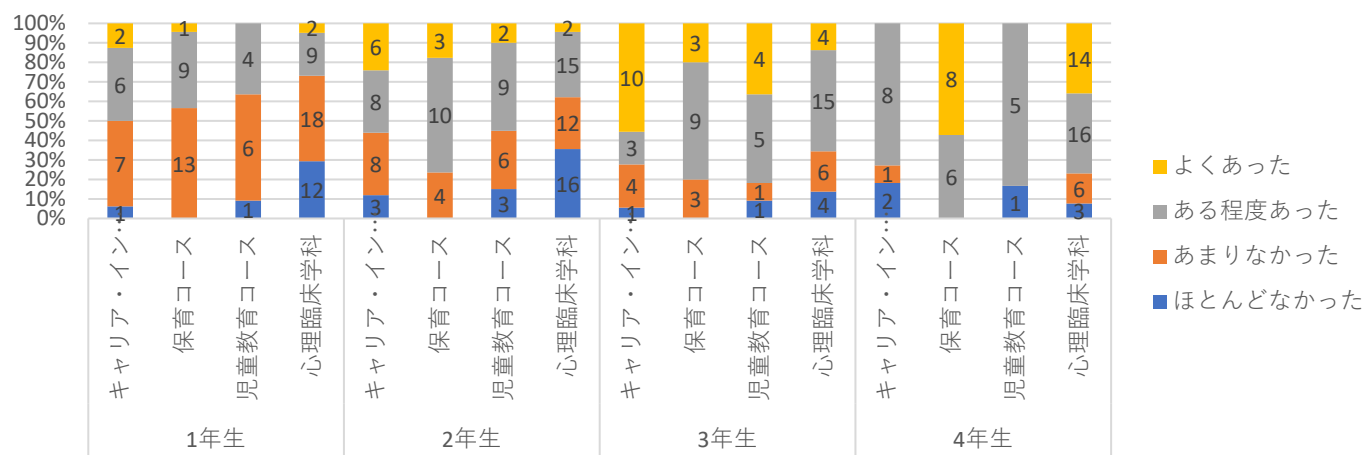
小テストやレポートなどの課題が出された



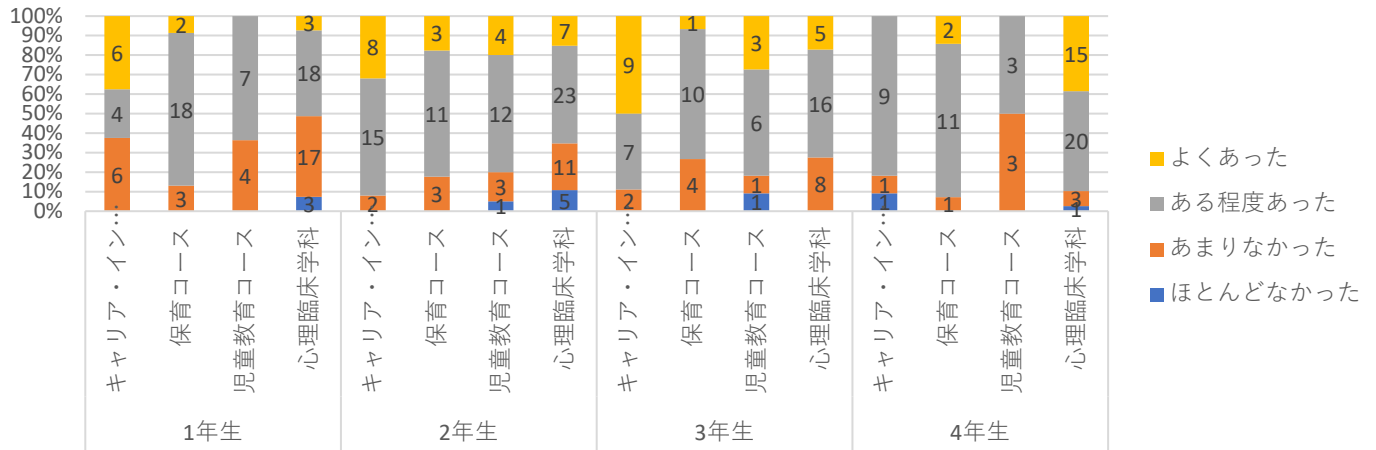
適切なコメントが付されて提出物が返却された



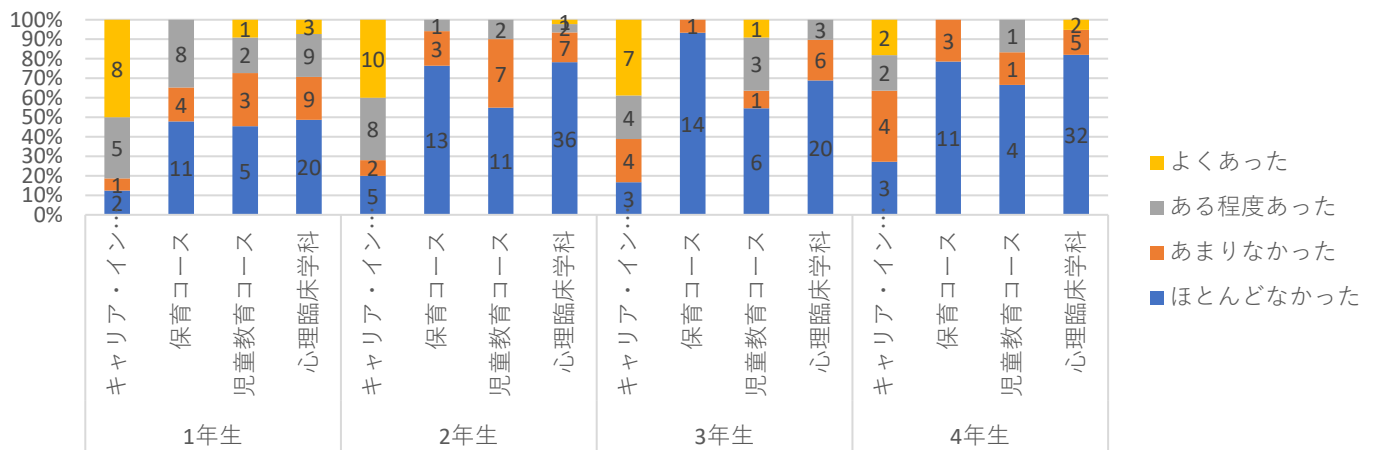
グループワークやディスカッションの機会があった



教員から意見が求められたり、質疑応答の機会があった



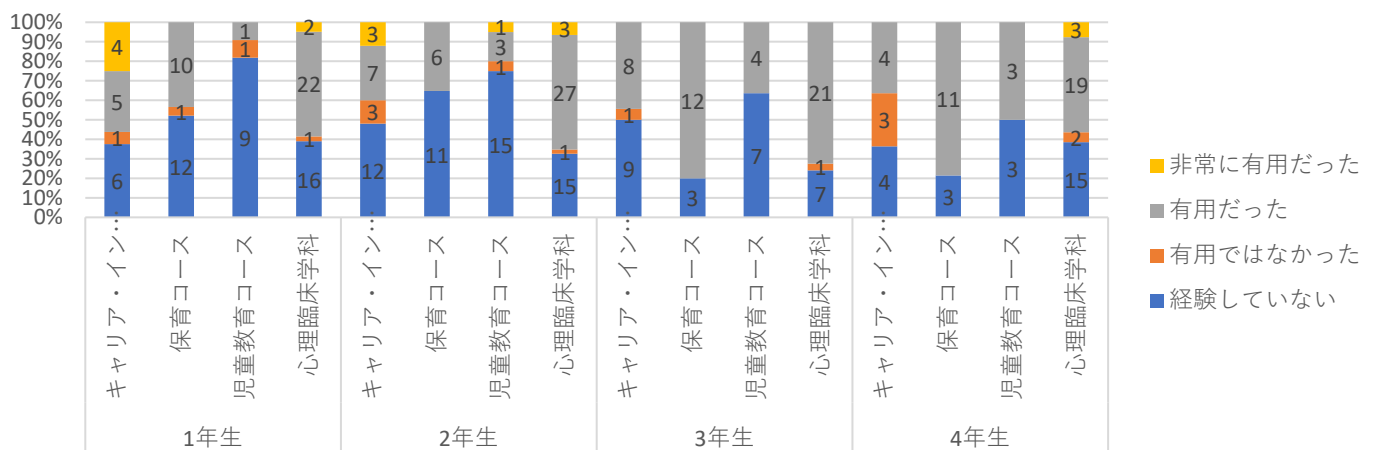
語学科目以外で主に英語で行われる授業があった



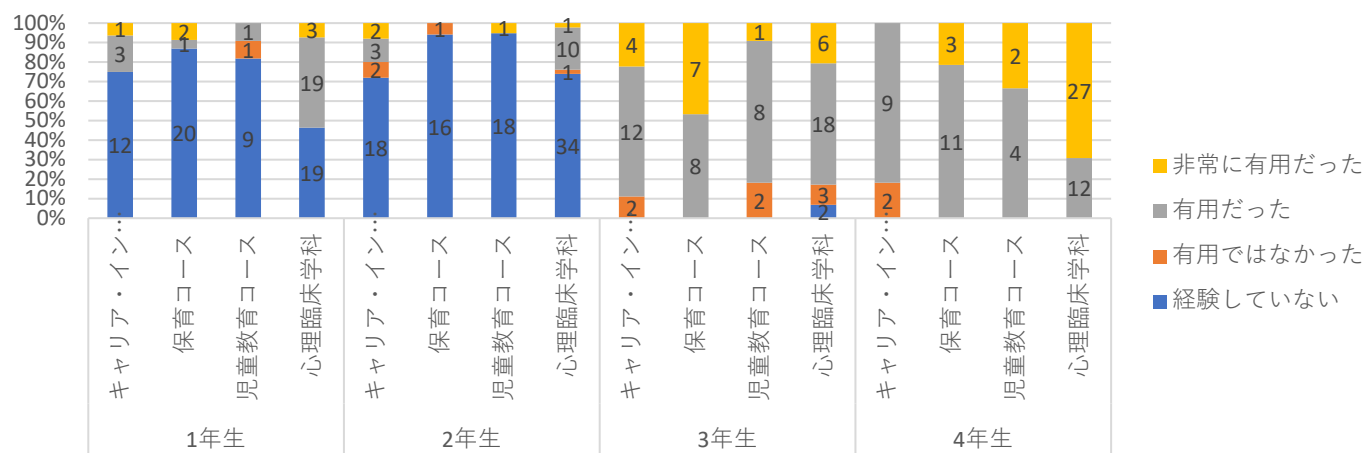
学習経験の有用性

本学の教育の機会に関して、その経験の有無と有用性に関して「経験していない」「有用でなかった」「有用だった」「非常に有用だった」の4つの選択肢から選択してもらい、集計しました。質問項目ごとの学年・学科・専攻・コースごとの回答の分布を以下にまとめます。

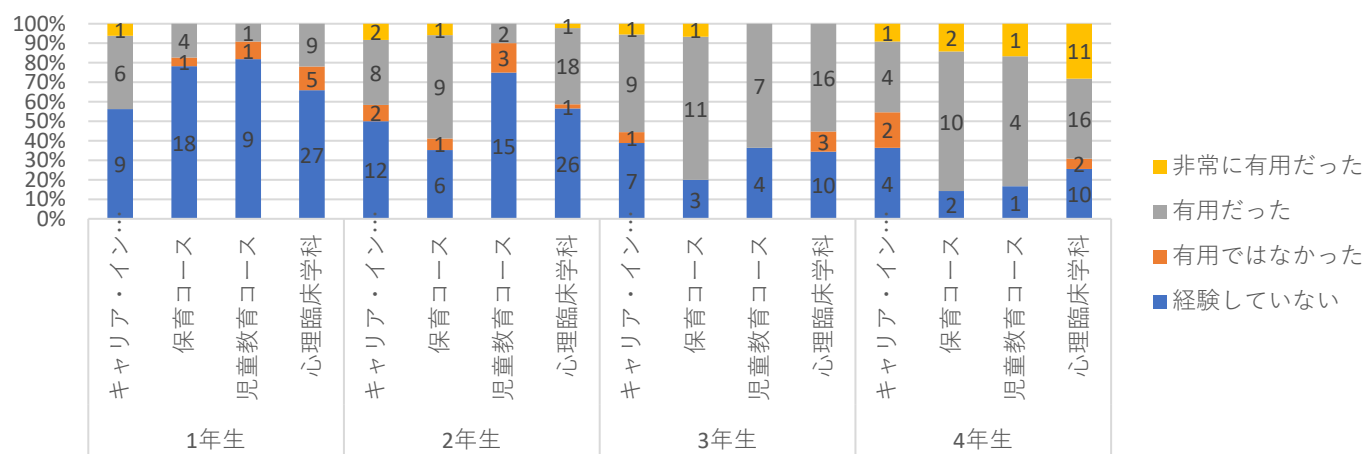
大学での勉強の方法を学ぶ科目



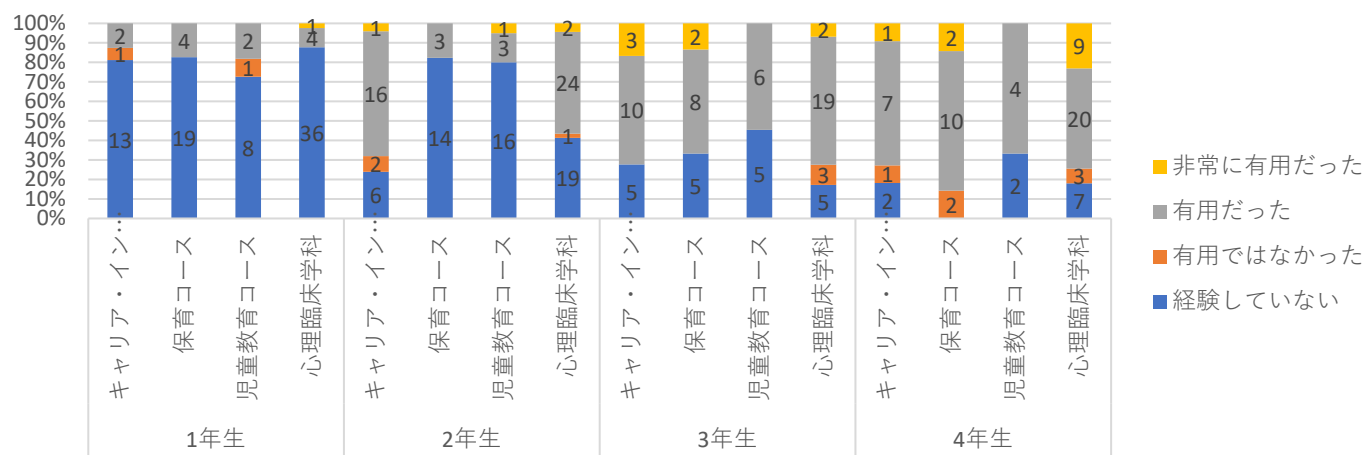
研究室やゼミでの小人数教育



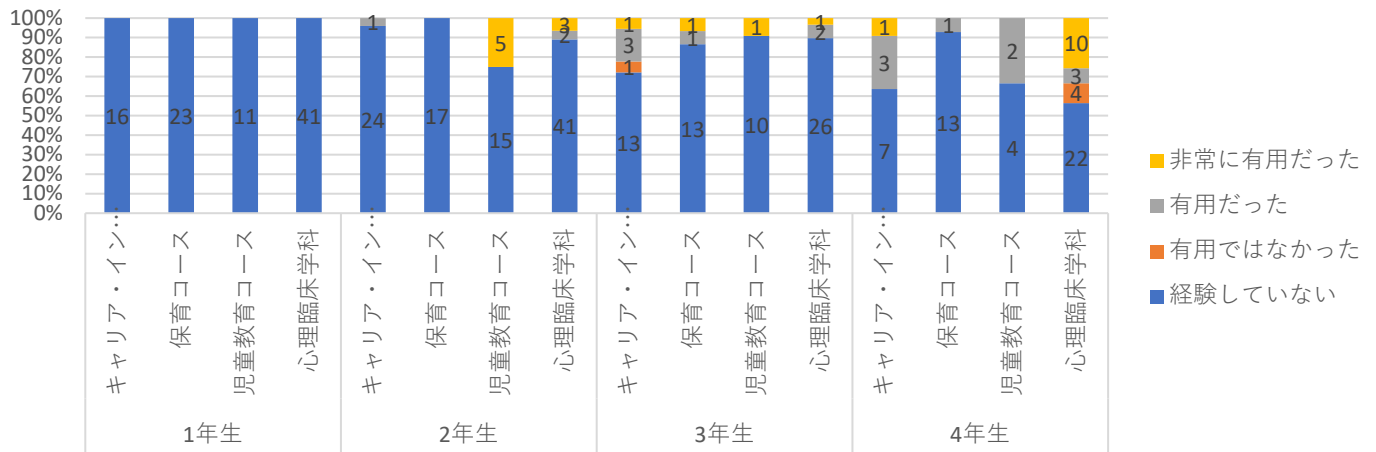
(授業以外で) 教員に質問したり、勉強の仕方を相談する機会



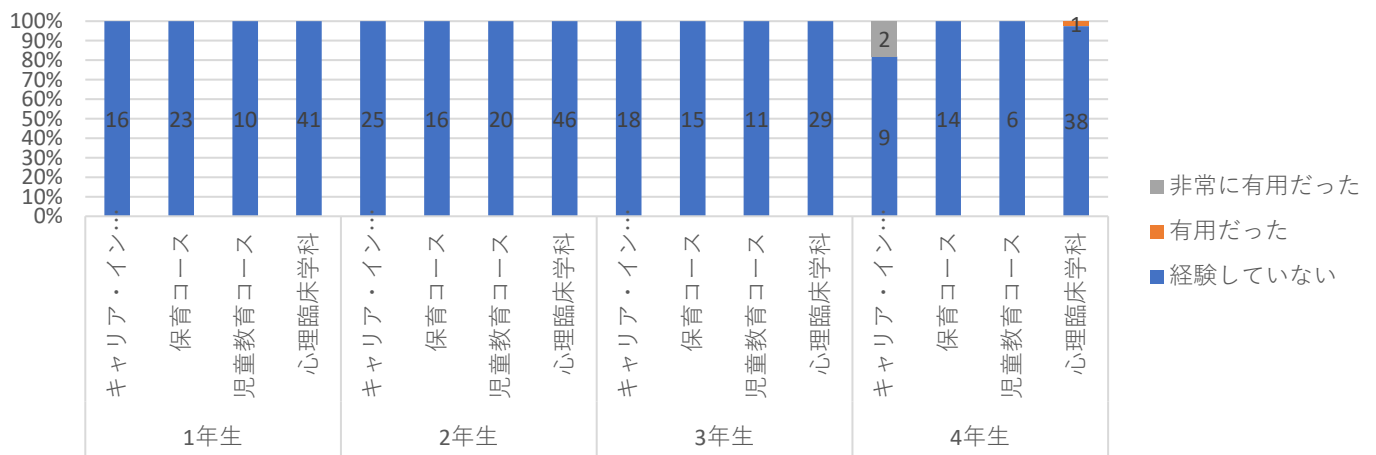
キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング



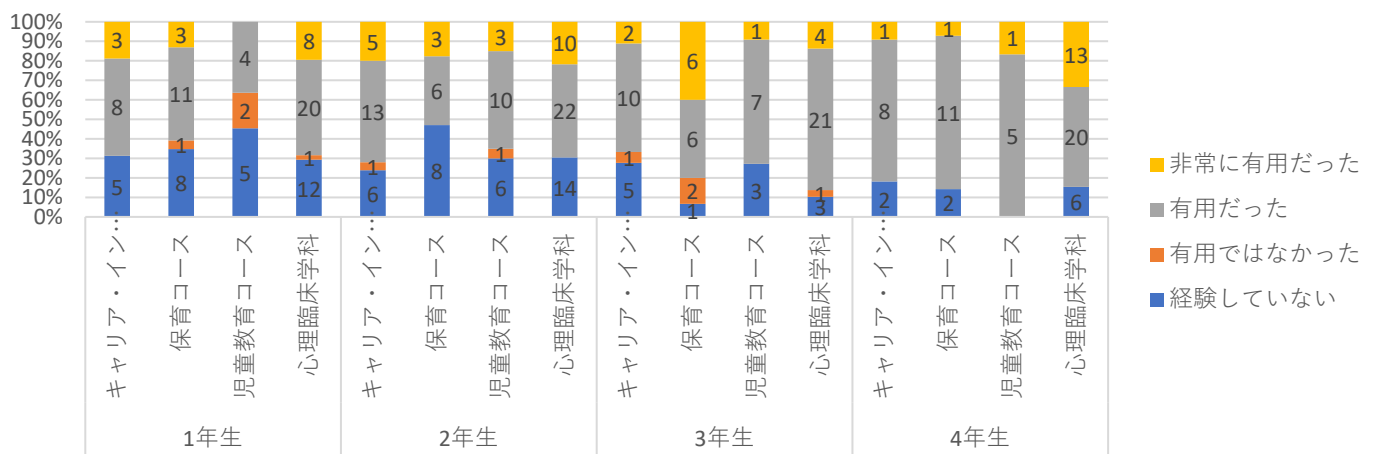
インターンシップ（5日以上）



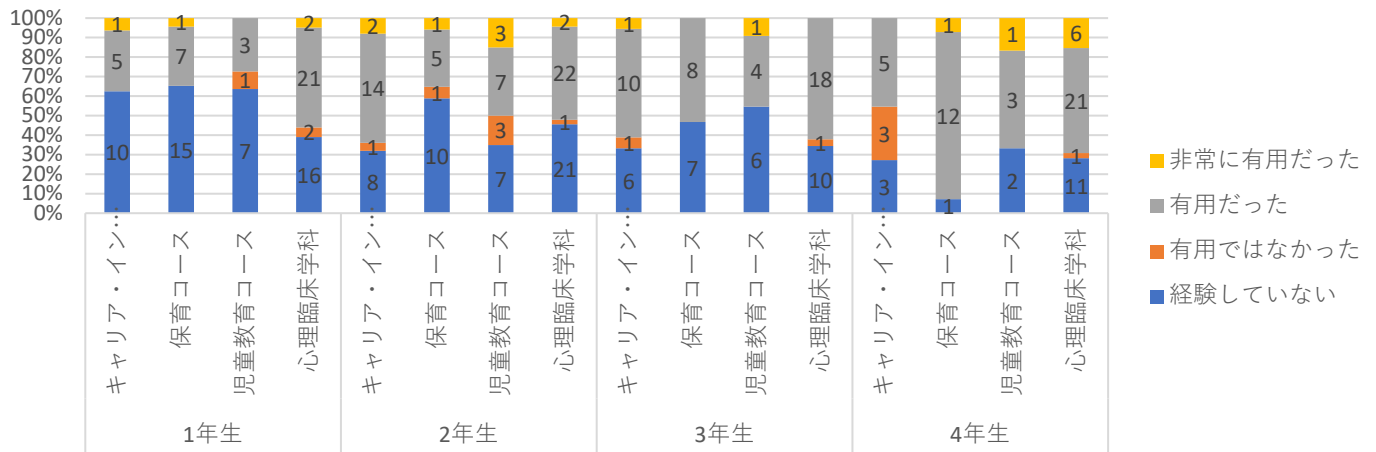
海外留学（3ヶ月以上）



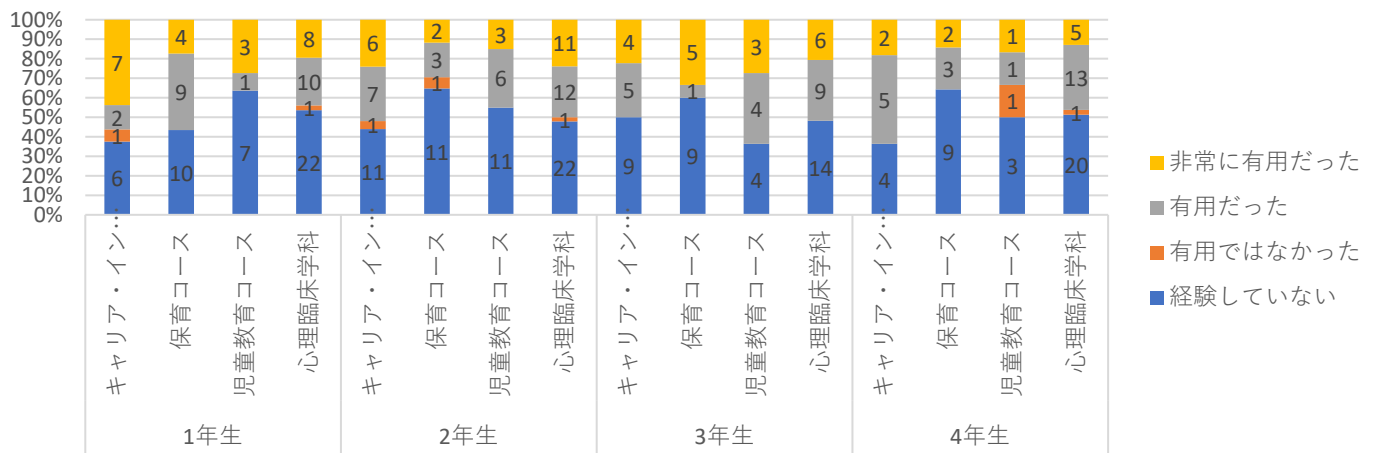
図書館やアクティブラーニングスペースを活用した学習



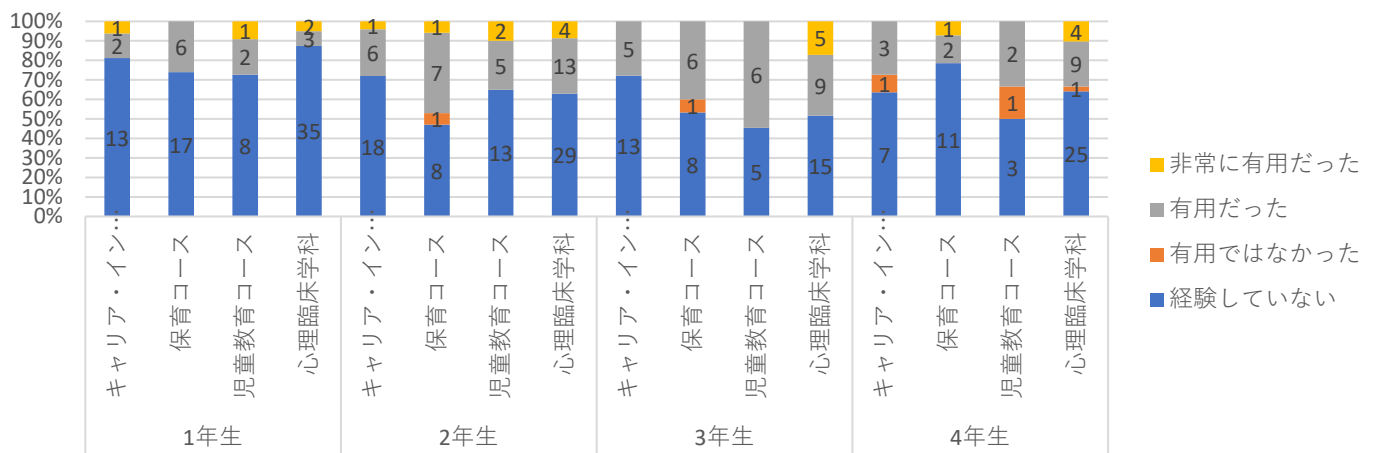
科目履修や資格取得に関する相談やサポート



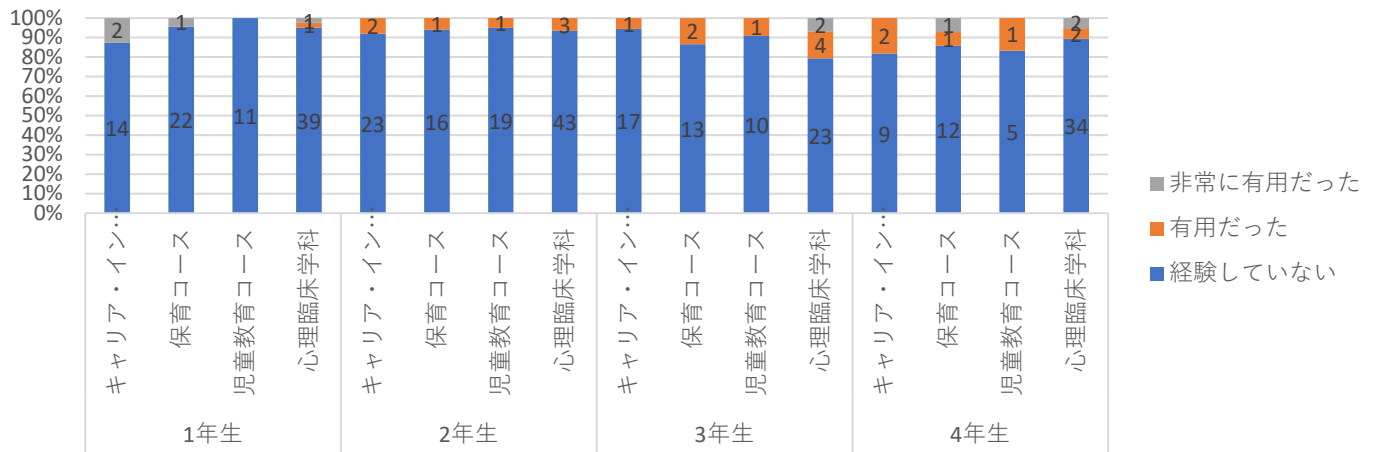
奨学金などの生活支援制度



学生相談などの心身の健康に関わる相談やサポート



事件・事故・被災・ハラスメントに関する相談やサポート

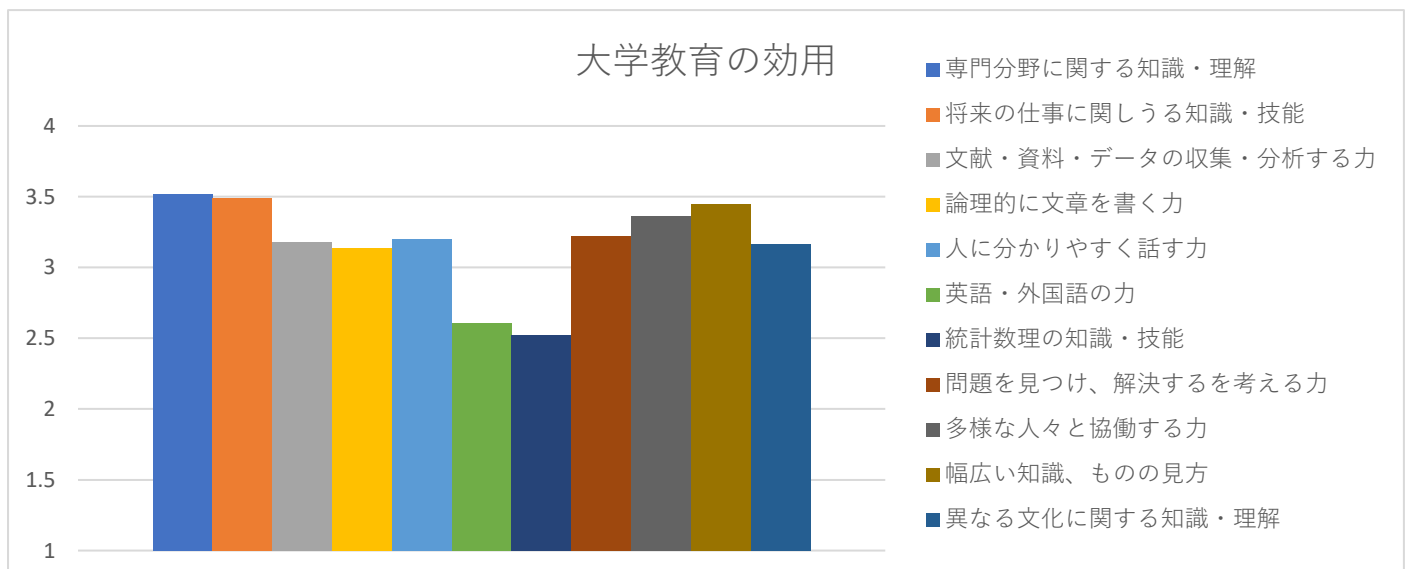


大学教育の効用

各項目に挙げる知識・能力を身に着けることに対して大学教育が役立っているか否かを、「1. 役に立っていない」「2. あんまり役に立っていない」「3. 少し役に立っている」「4. とても役に立っている」の4件法で質問し、回答者数に対する平均値を求めました。

各項目に関しては先述した「知識能力向上」の節と同じですが、そこで聞いたのが自分の知識・能力が向上したか否かだったのに対して、こちらでは大学教育がそれらの知識・能力の向上に役立つものなのかを質問しています。結果としてはほぼ同じような形のグラフができていますが、全体的に0.5ポイント程度ずつ高い数値が出ています。

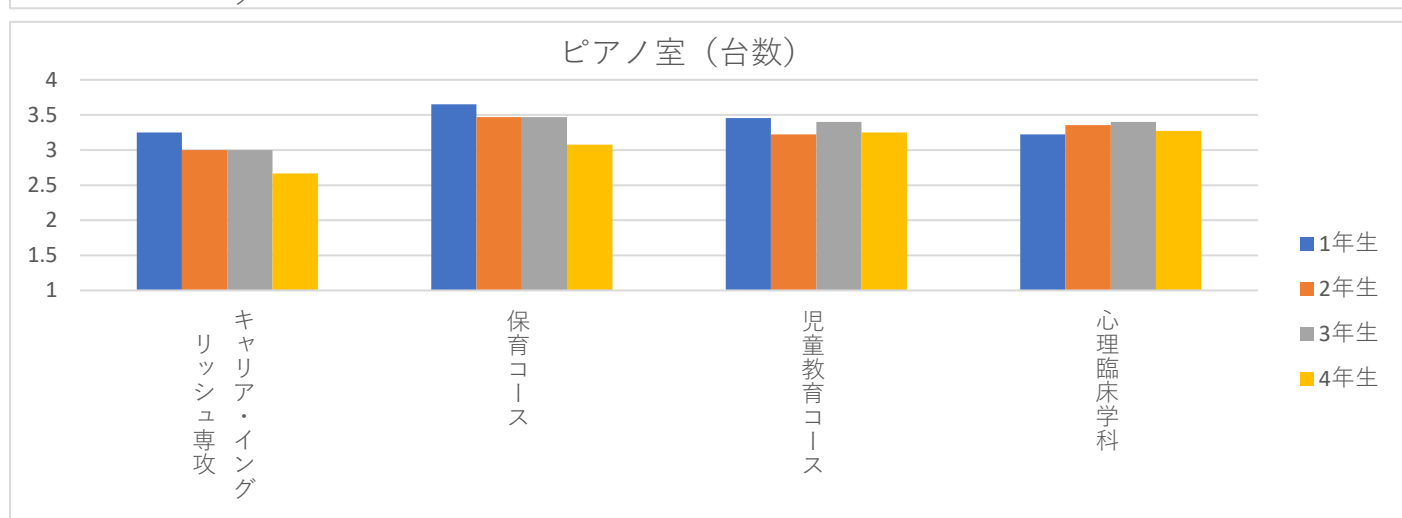
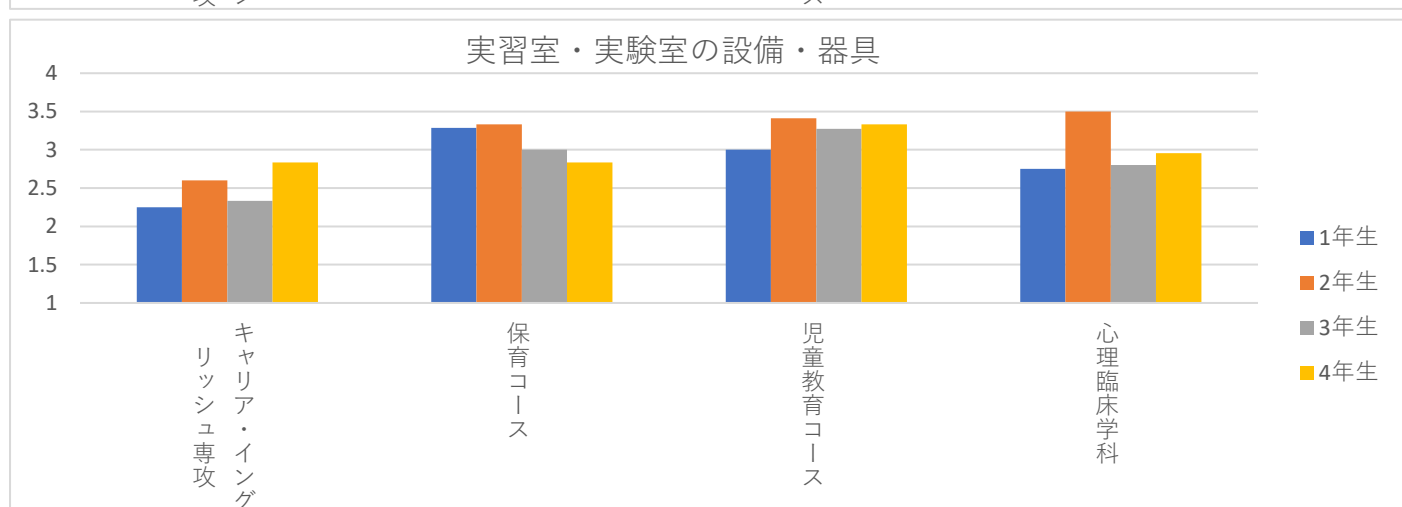
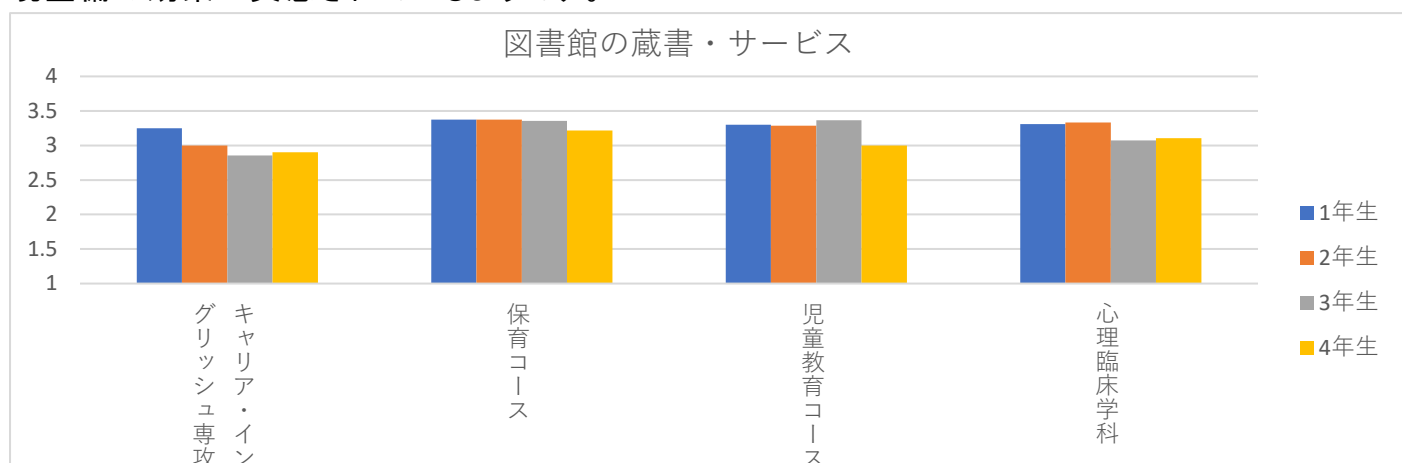
学生たちは『大学が提供している教育によって本来達成できるはずの知識・能力の成長』よりも、『実際の自分の成長』は一回り少ないと感じているのかもしれません。

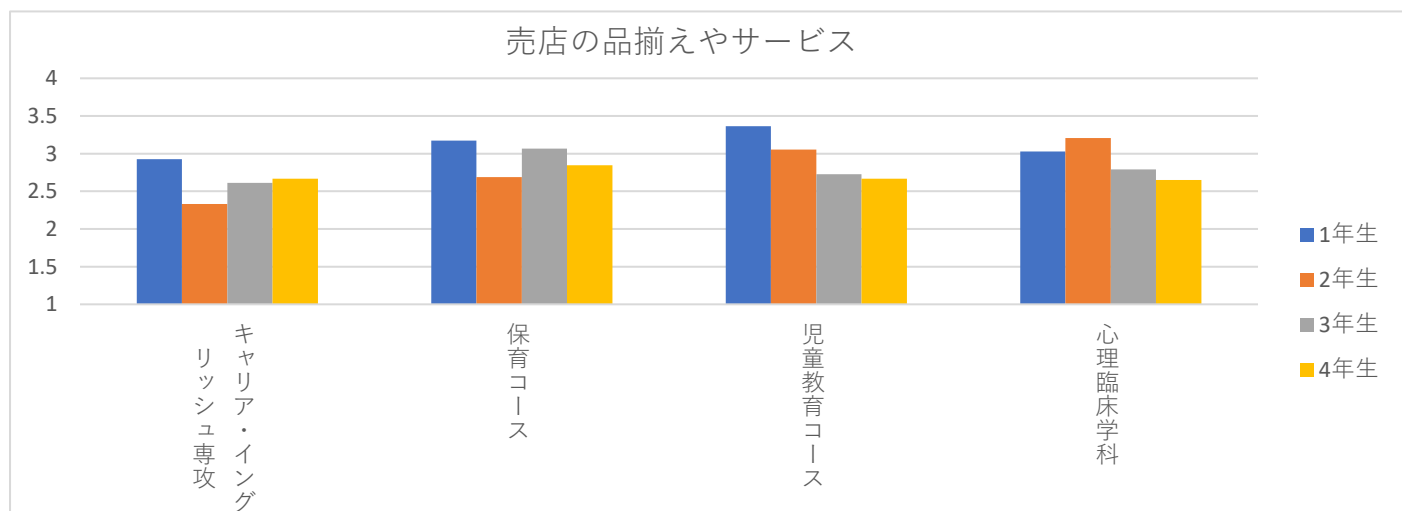
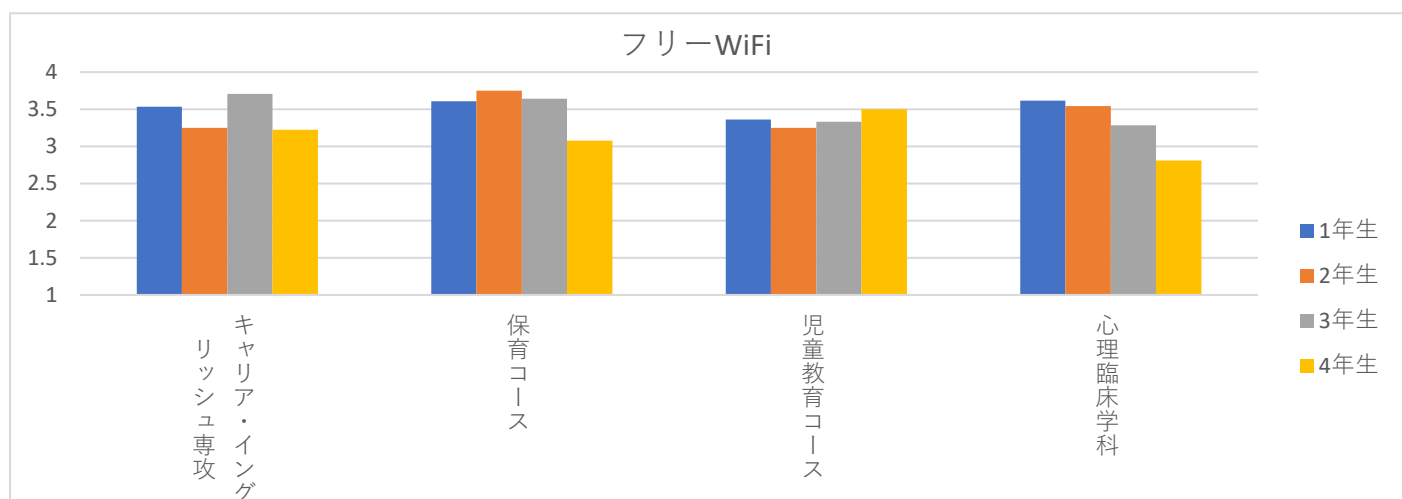
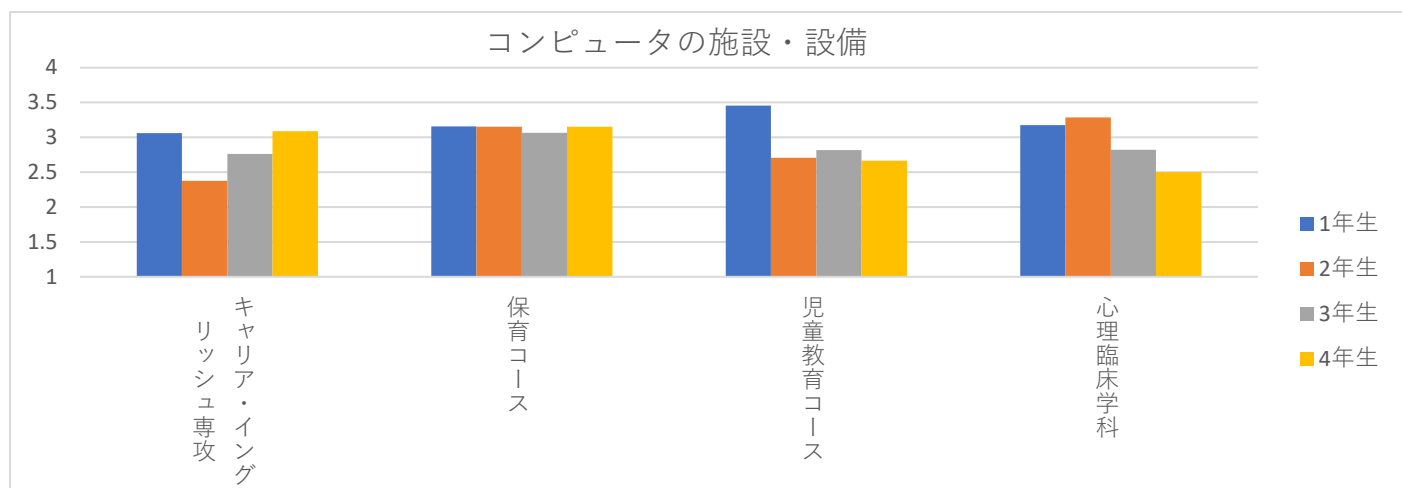


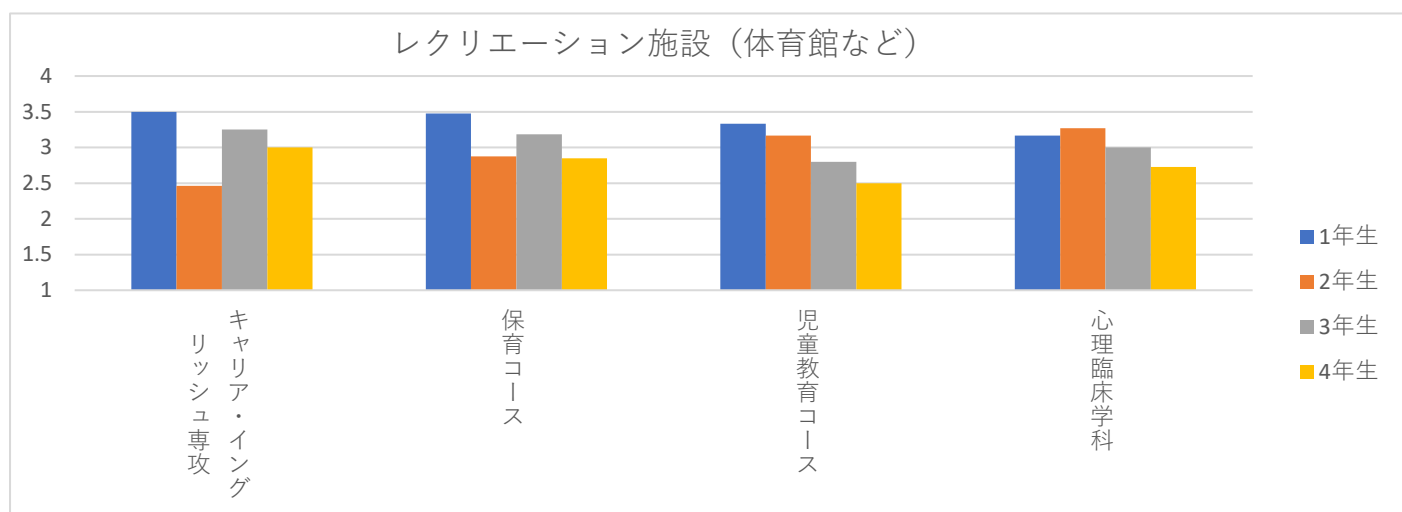
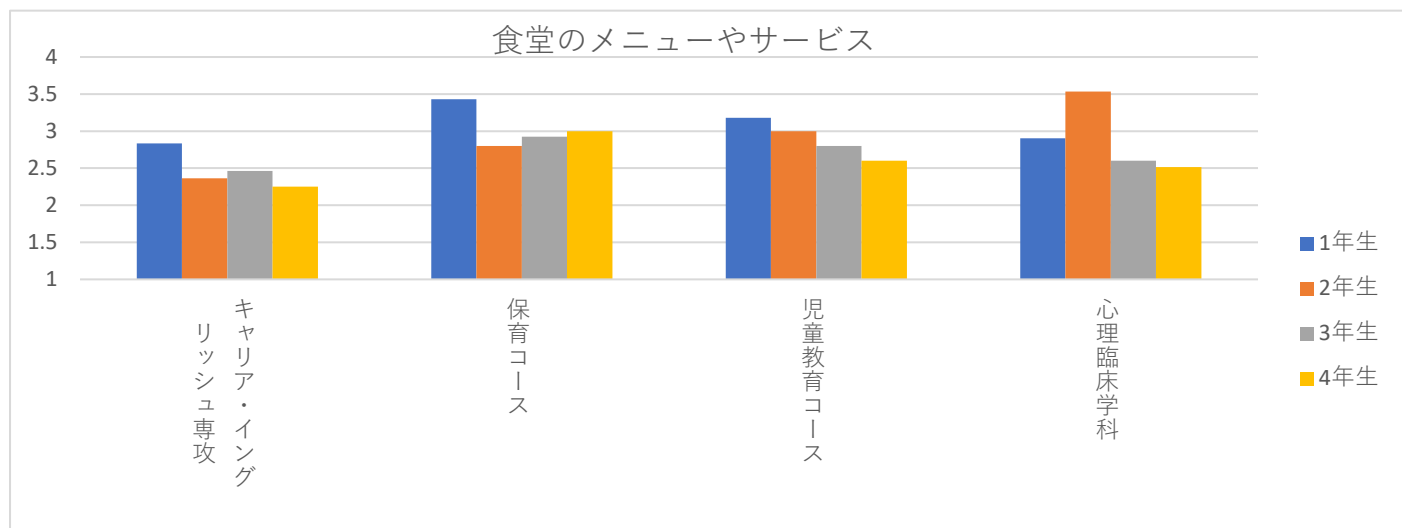
施設・サービス満足度

学内施設およびサービスに対する満足度に関して、「まったく満足していない」「あまり満足していない」「まあまあ満足している」「とても満足している」「利用していない」の5件法で質問し、「利用していない」以外の回答に関して、「1. まったく満足していない」「2. あまり満足していない」「3. まあまあ満足している」「4. とても満足している」と点数化し、その平均値を求めました。

2018 年度調査で 2.5 ポイントを下回っていた Wi-Fi も環境が整備されたことで 2019 年度調査以降よりその状況を脱し、「まあまあ満足している」相当の 3 ポイントを上回る結果になっており、環境整備の効果が実感されているようです。



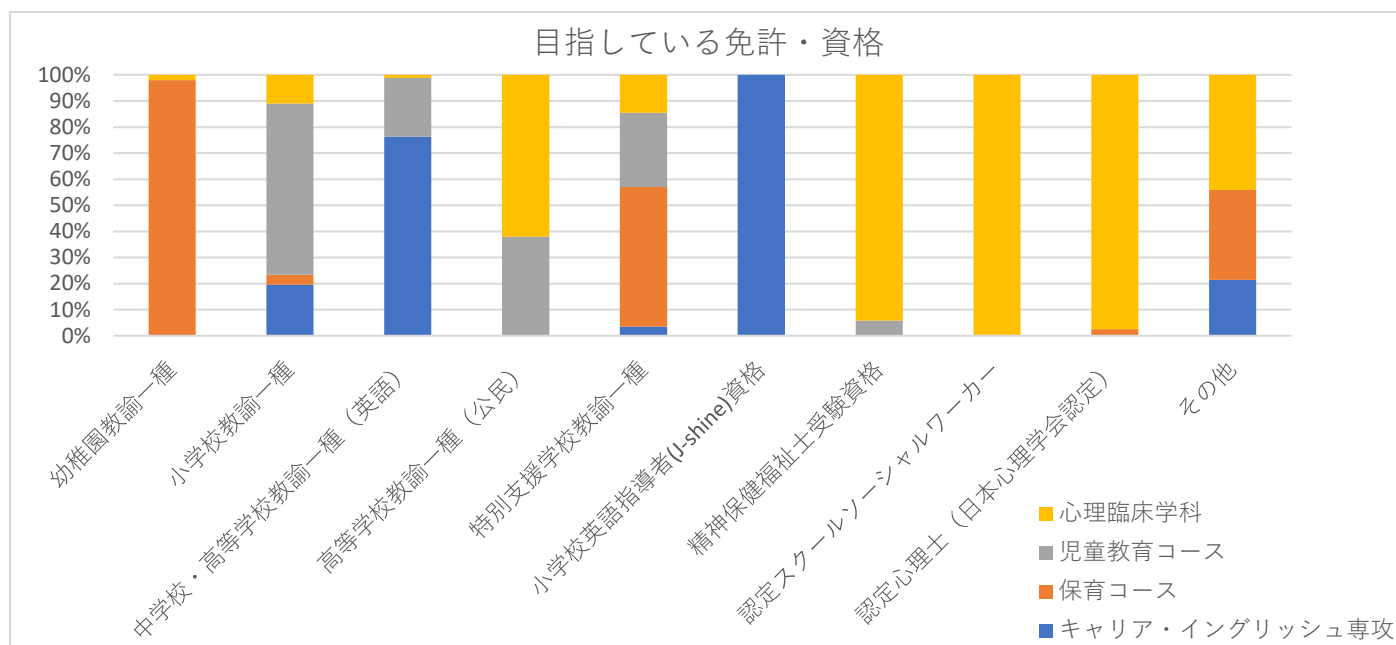
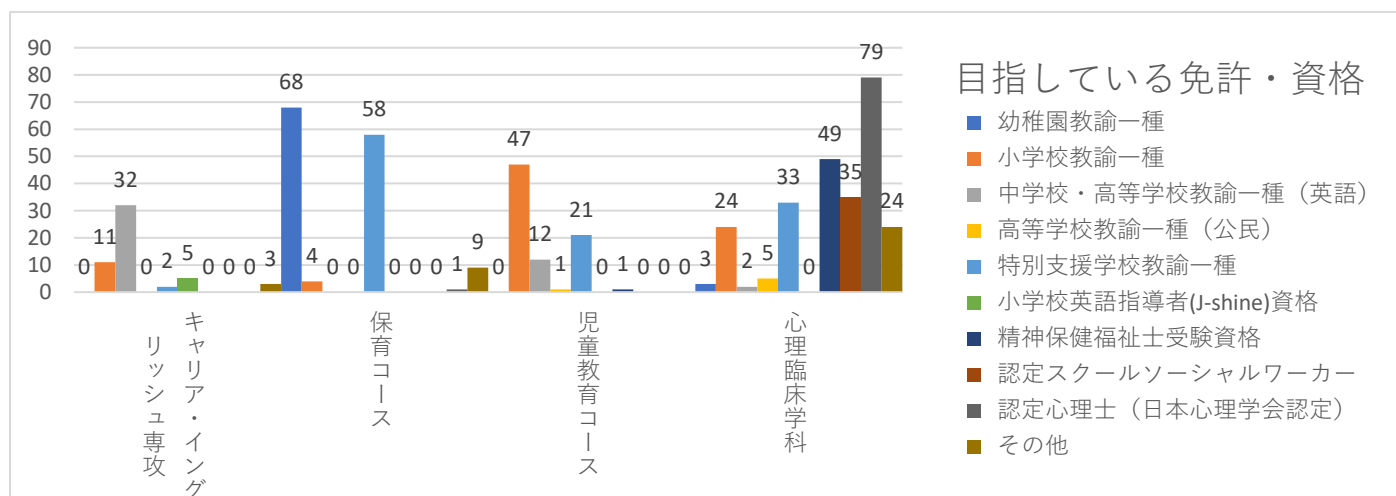




資格取得希望・達成状況

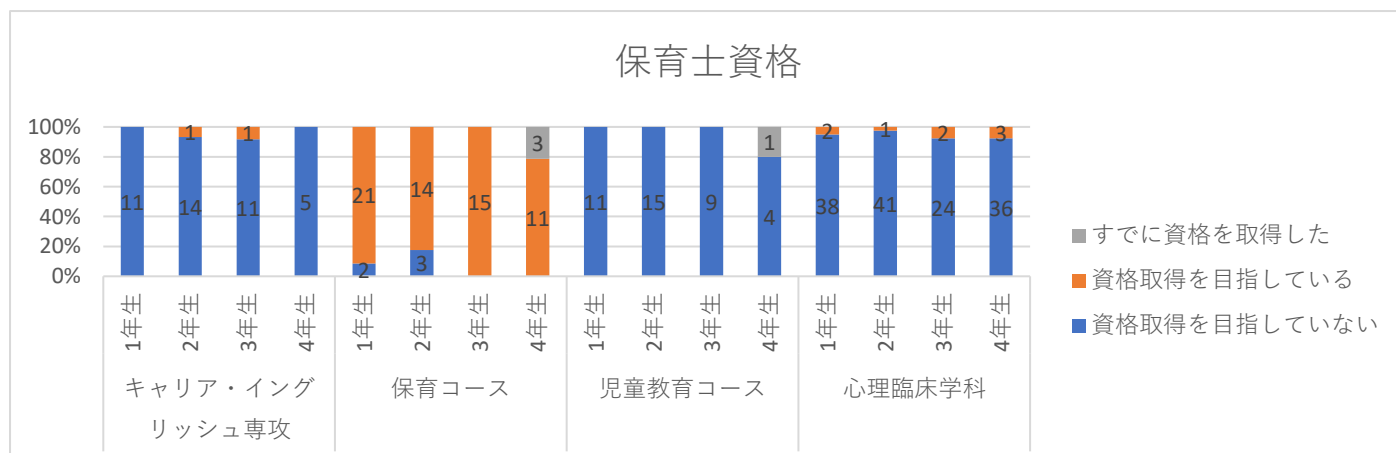
目指している免許・資格

2020年度も学生にどのような資格を目指しているかを尋ねました。保育士資格および各種検定試験については別途質問しています。



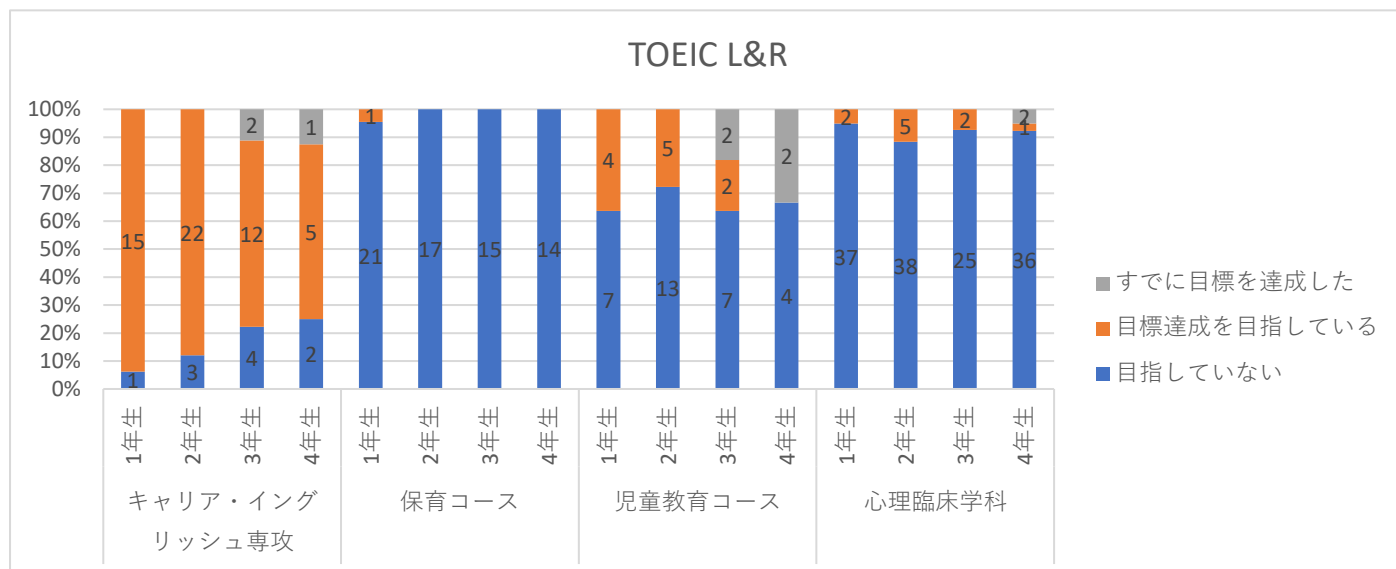
保育士資格

保育士資格取得に関して「資格取得を目指していない」「資格取得を目指している」「すでに資格を取得した」の選択肢の中からあてはまるものを一つ選択してもらいました。

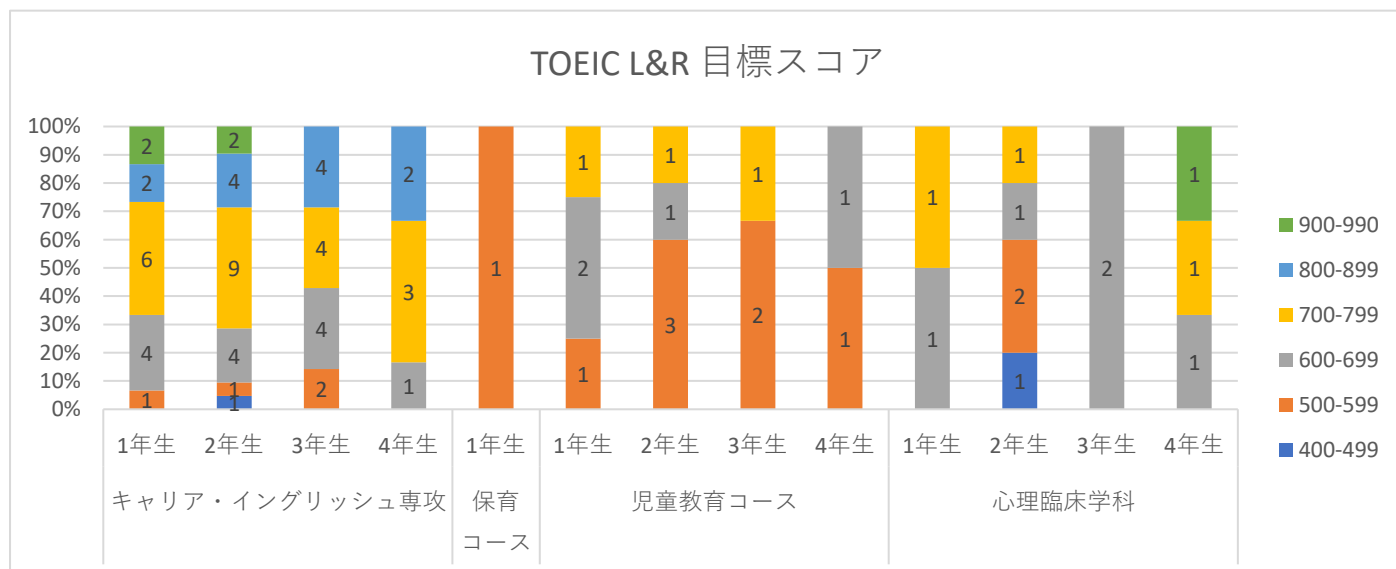


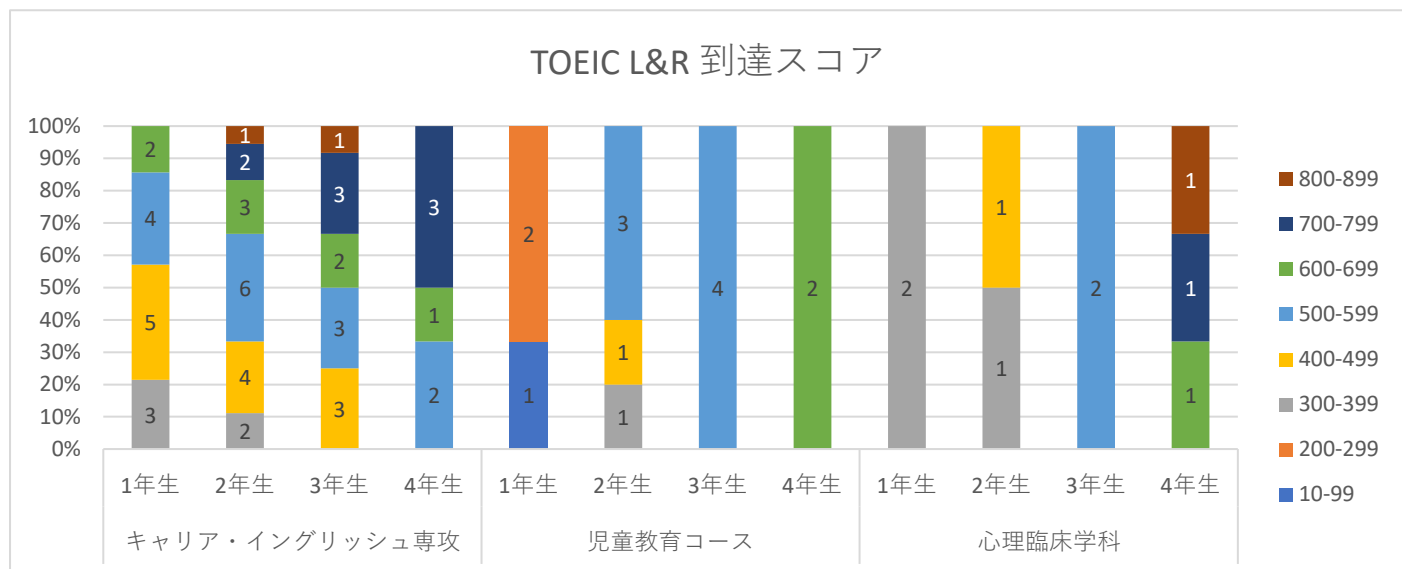
TOEIC L&R

昨年度まで質問文中では単に「TOEIC」と表記されていましたが、齟齬のないように記述を「TOEIC L&R」に改めました。TOEIC L&R に関してその受験を目指しているかを「目指していない」「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」の選択肢より該当するものを選択してもらい集計しました。



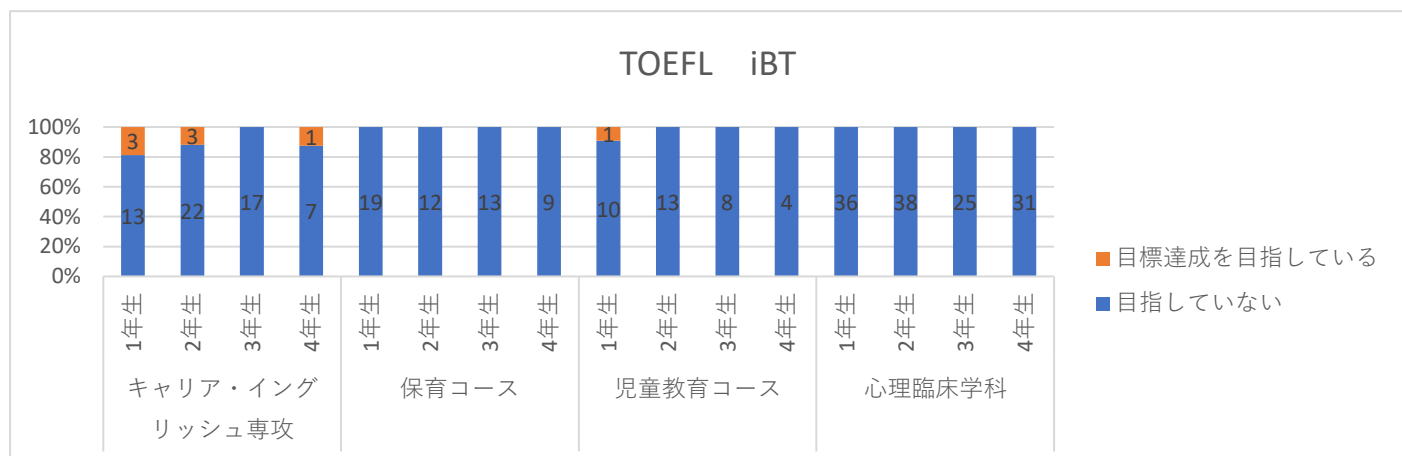
また、「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」を選択した学生に対してさらに目標スコアと到達スコアの点数帯を選択させ集計しました。各学科・専攻・コース、学年ごとの回答者数における点数帯の選択比率を以下に示します。



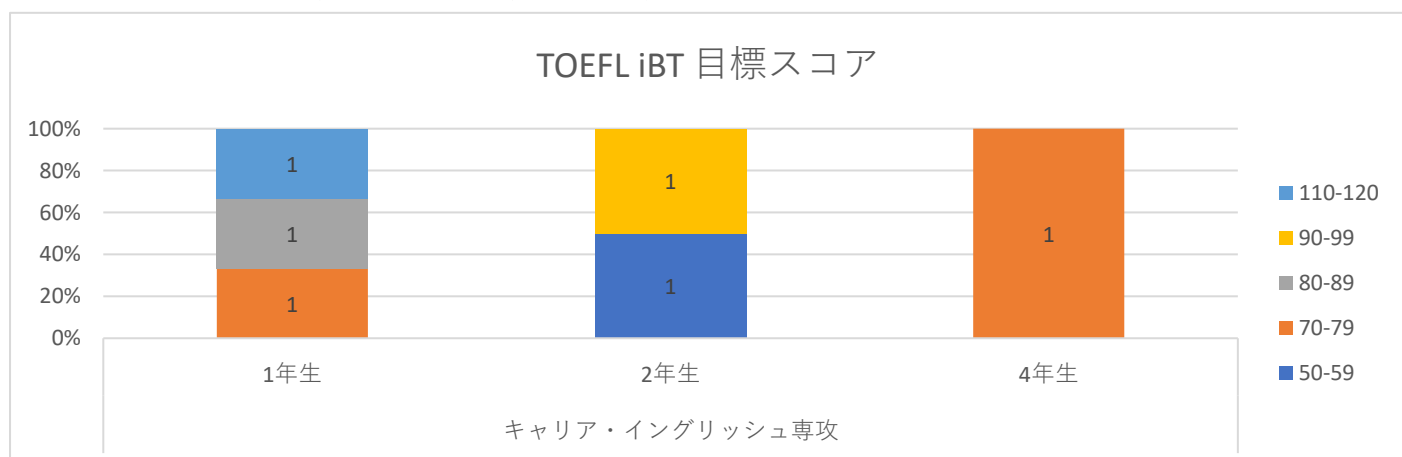


TOEFL iBT

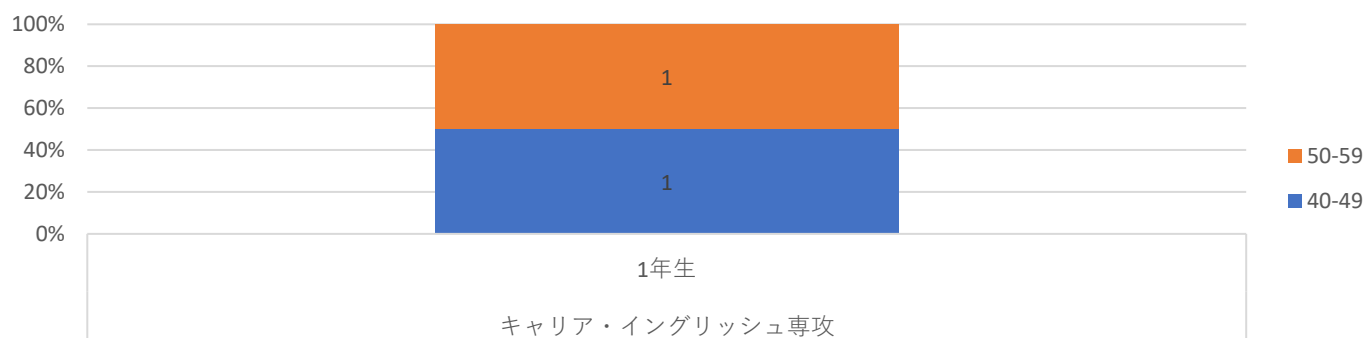
こちらにも TOEIC L&R と同様の理由で前年度調査まで「TOEFL」と表記していたものを「TOEFL iBT」と表記を改めました。TOEFL iBT に関しても、その受験を目指しているかを「目指していない」「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」の選択肢より該当するものを選択してもらい集計しました。



また、「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」を選択した学生に対してさらに目標スコアと到達スコアの点数帯を選択させ集計しました。回答の得られたキャリア・イングリッシュ専攻の学年ごとの回答者数における点数帯の選択比率を以下に示します。



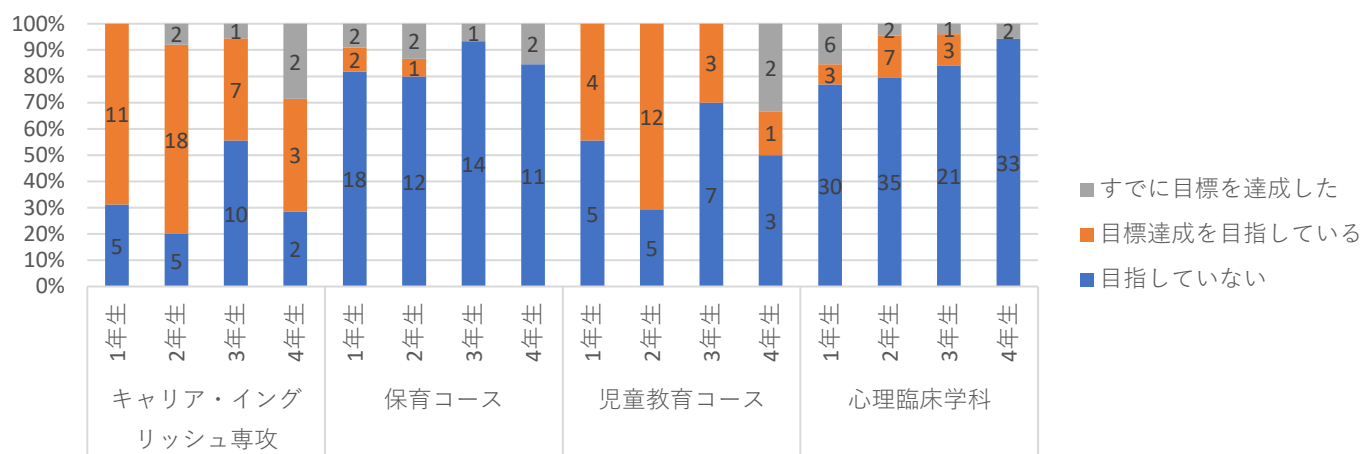
TOEFL iBT 到達スコア



実用英語技能検定

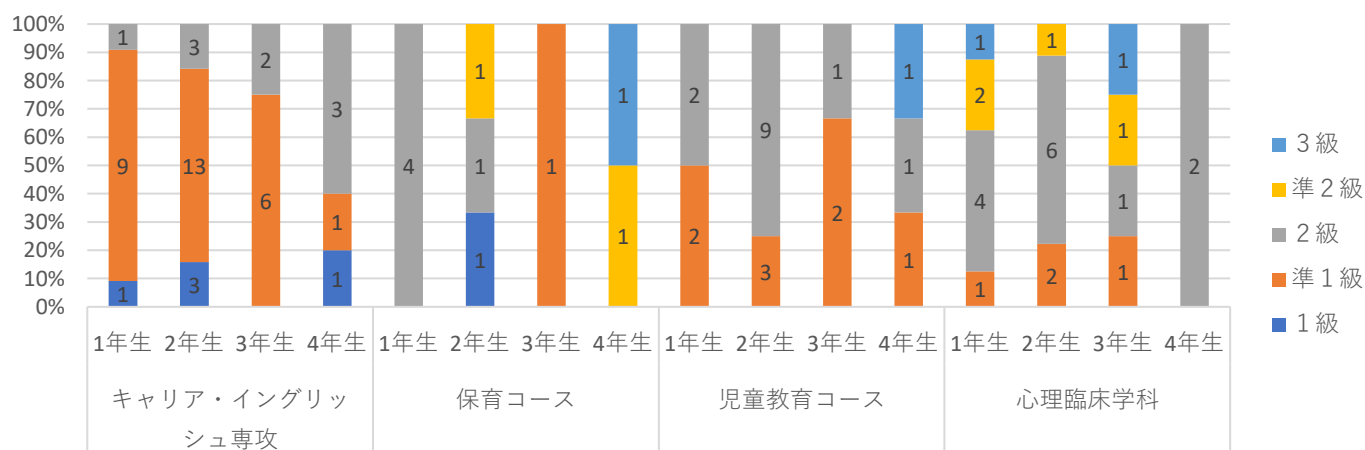
実用英語技能検定に関して、その受験を目指しているかを「目指していない」「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」の選択肢より該当するものを選択してもらい集計しました。

実用英語技能検定

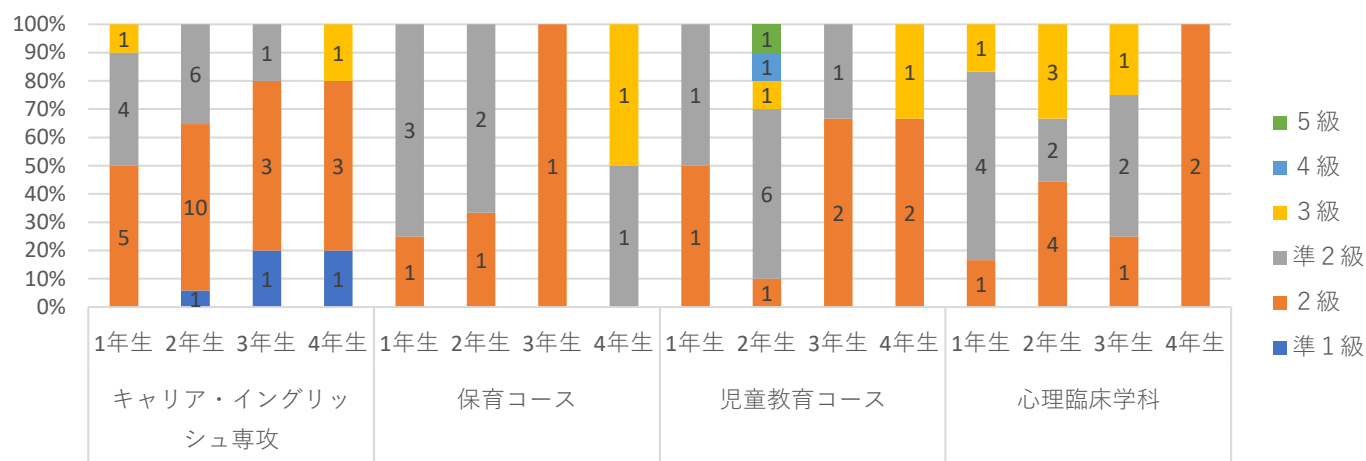


また、「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」を選択した学生に対してさらに目標等級と到達等級を選択してもらい集計しました。各学科・専攻・コース，学年ごとの回答者数における各等級の選択比率を以下に示します。

実用英語技能検定 目標等級



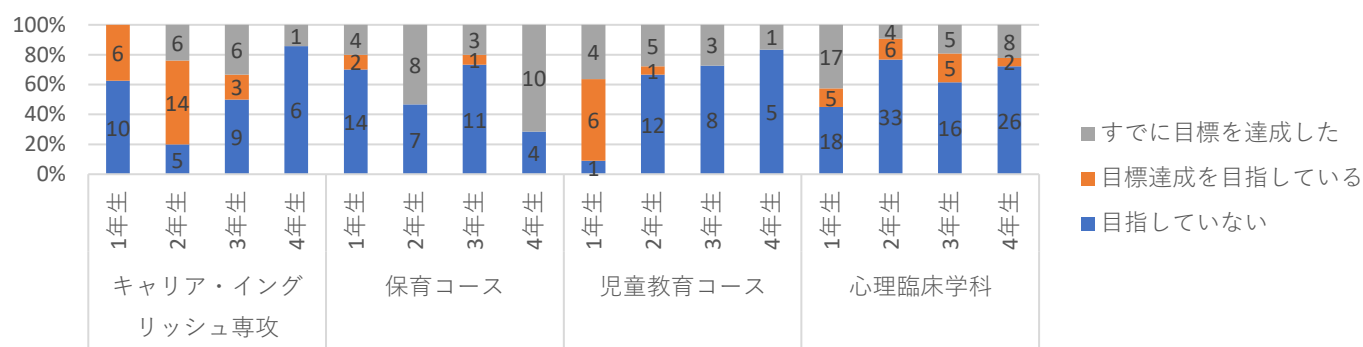
実用英語技能検定 到達等級



WORD 文書処理技能認定

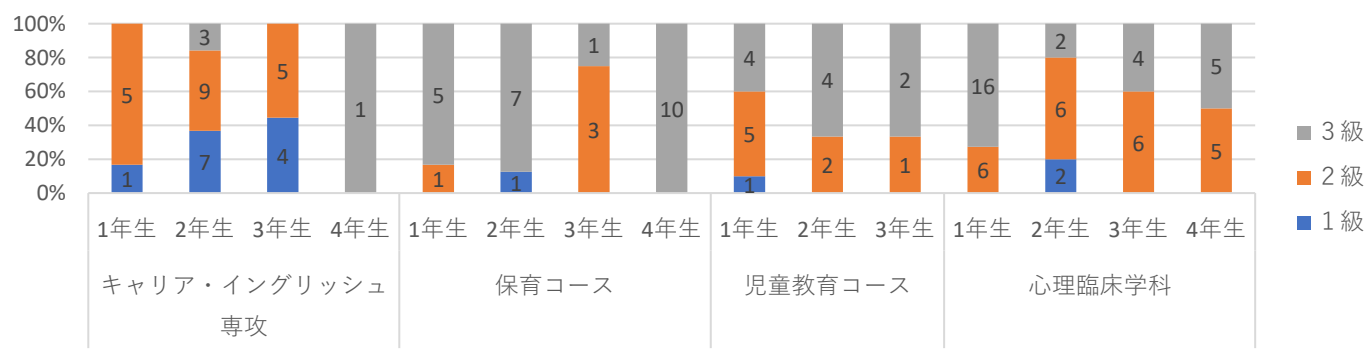
Word 文書処理技能認定の受験を目指しているかを「目指していない」「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」の選択肢より該当するものを選択してもらい集計しました。

Word文書処理技能認定

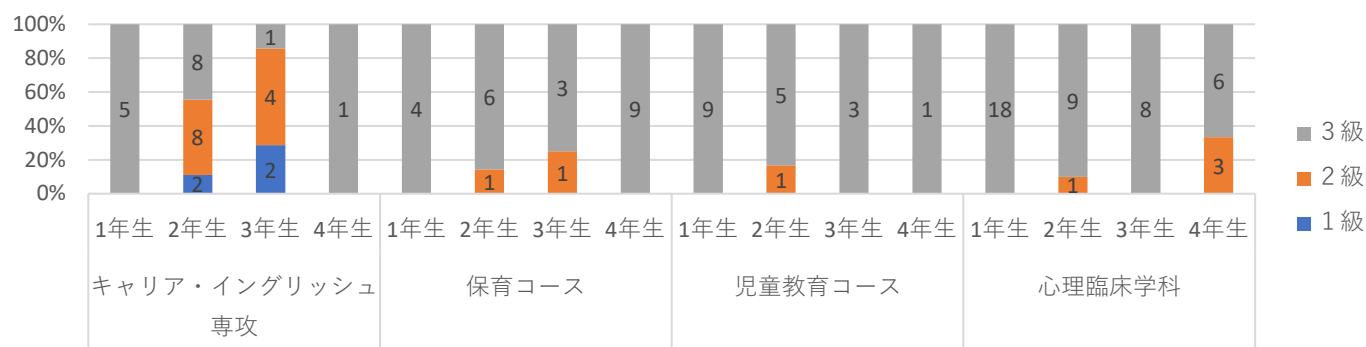


また、「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」を選択した学生に対してさらに目標等級と到達等級を選択してもらい集計しました。各学科・専攻・コース、学年ごとの回答者数における各等級の選択比率を以下に示します。

Word文書処理技能認定 目標等級



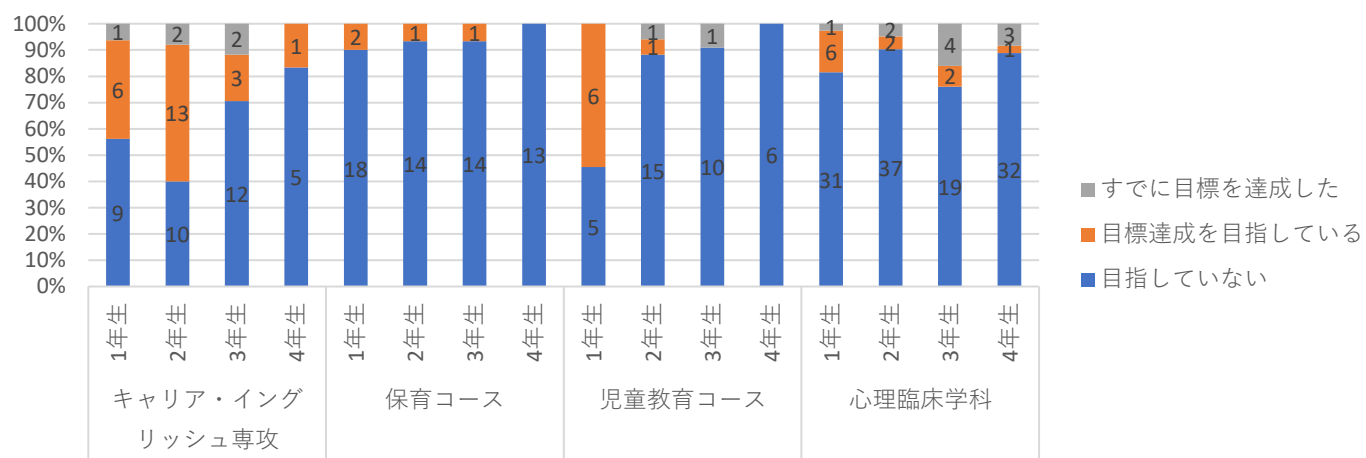
Word文書処理技能認定 到達等級



EXCEL 表計算処理技能認定

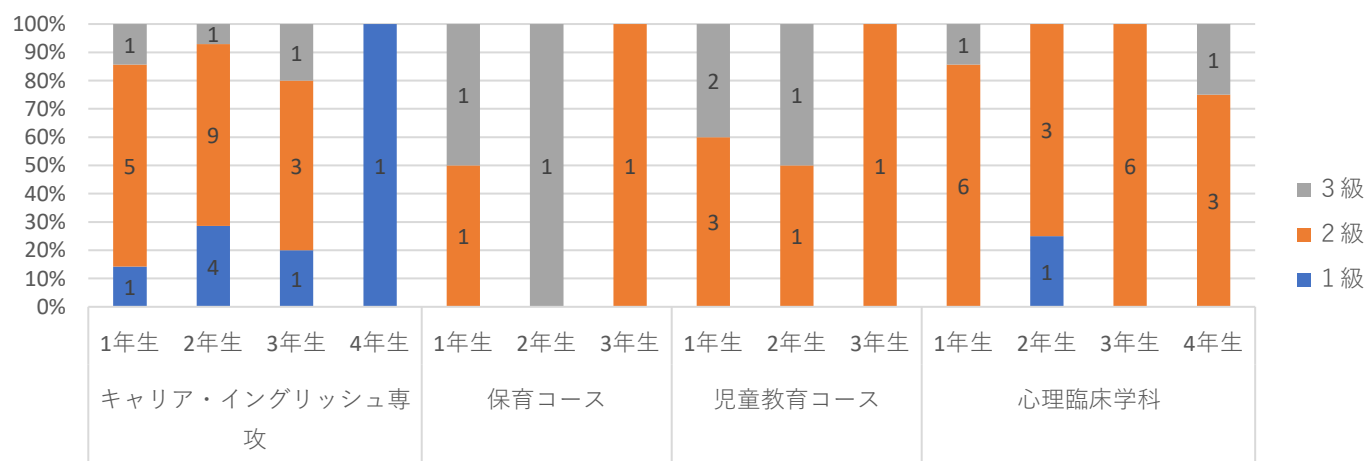
Excel 表計算処理技能認定の受験を目指しているかを「目指していない」「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」の選択肢より該当するものを選択してもらい集計しました。

Excel表計算処理技能認定

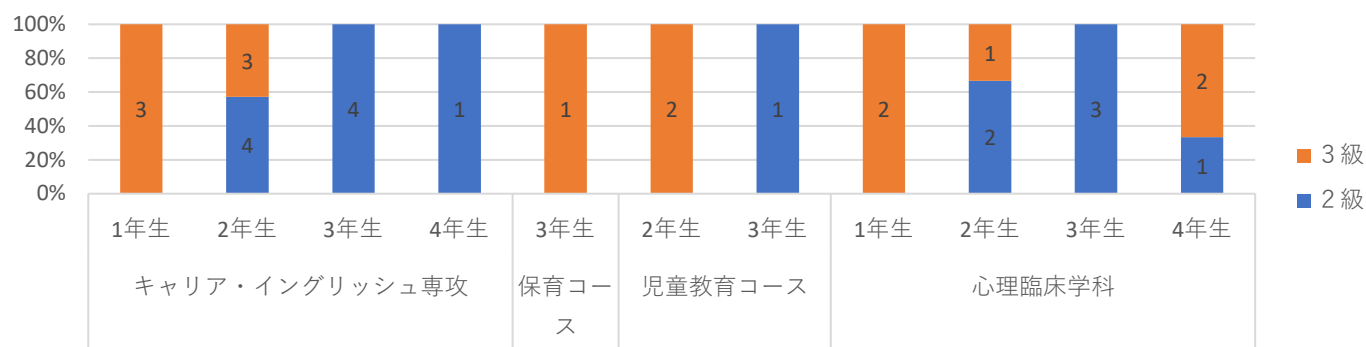


また、「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」を選択した学生に対してさらに目標等級と到達等級を選択してもらい集計しました。各学科・専攻・コース，学年ごとの回答者数における各等級の選択比率を以下に示します。

Excel表計算処理技能認定 目標等級



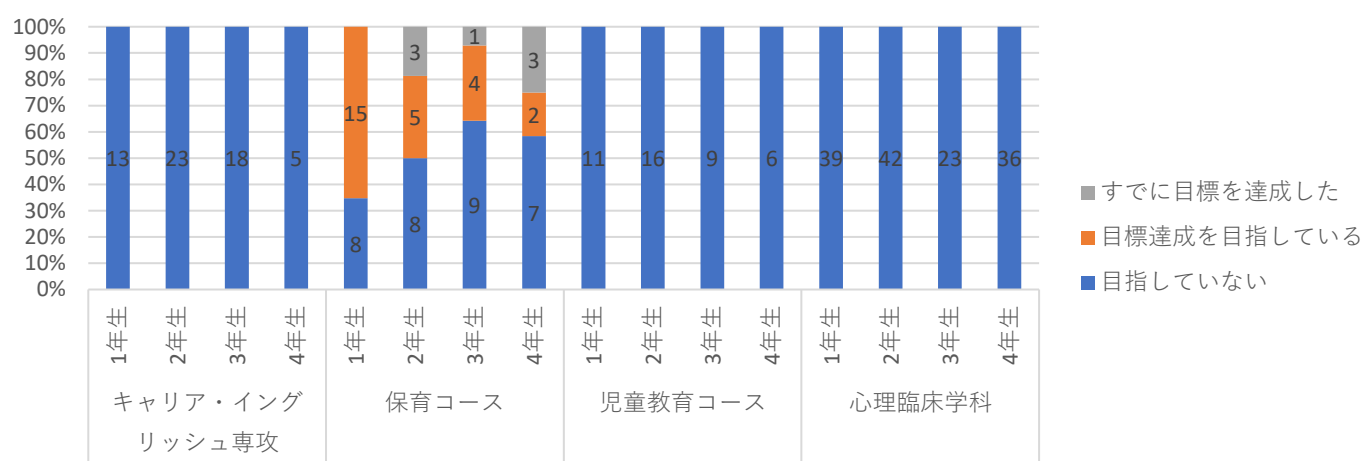
Excel表計算処理技能認定 到達等級



幼児教育・保育英語検定

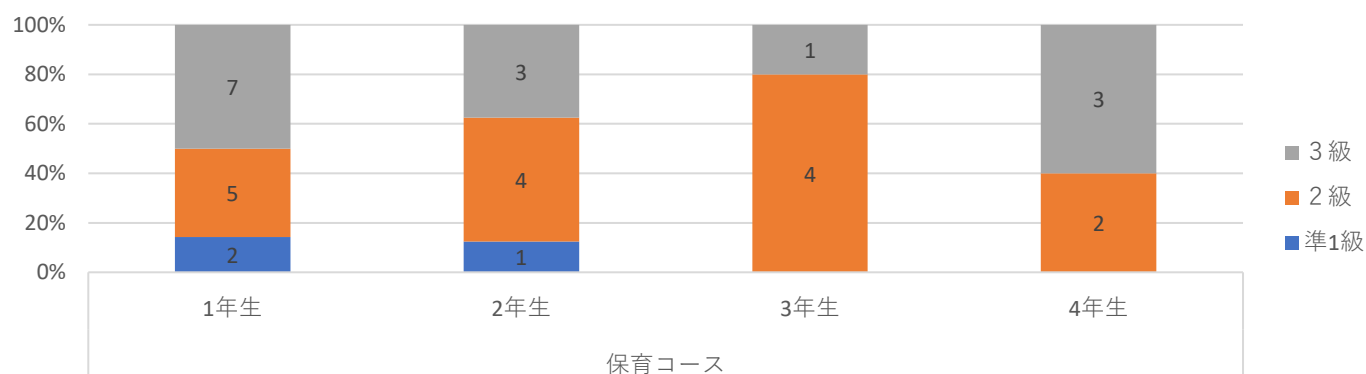
幼児教育・保育英語検定の受験を目指しているかを「目指していない」「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」の選択肢より該当するものを選択してもらい集計しました。

幼児教育・保育英語検定

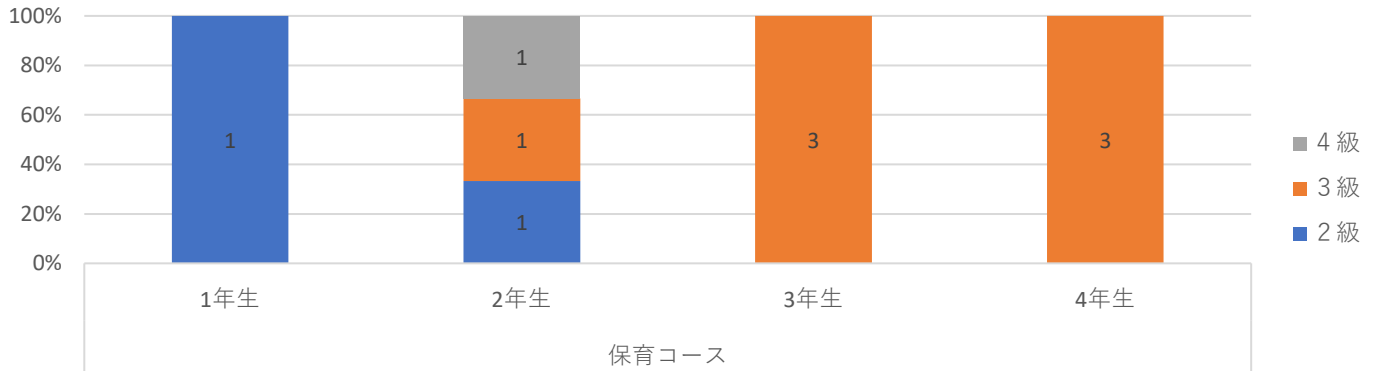


また、「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」を選択した学生に対してさらに目標等級と到達等級を選択してもらい集計しました。保育コースの学年ごとの回答者数における各等級の選択比率を以下に示します。

幼児教育・保育英語検定 目標等級



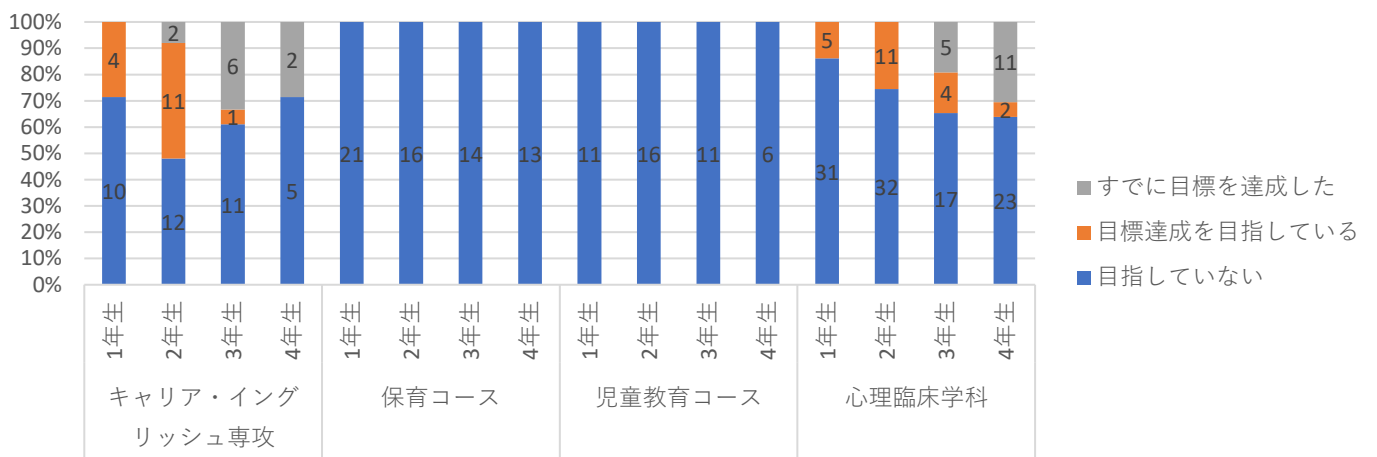
幼児教育・保育英語検定 到達等級



秘書検定

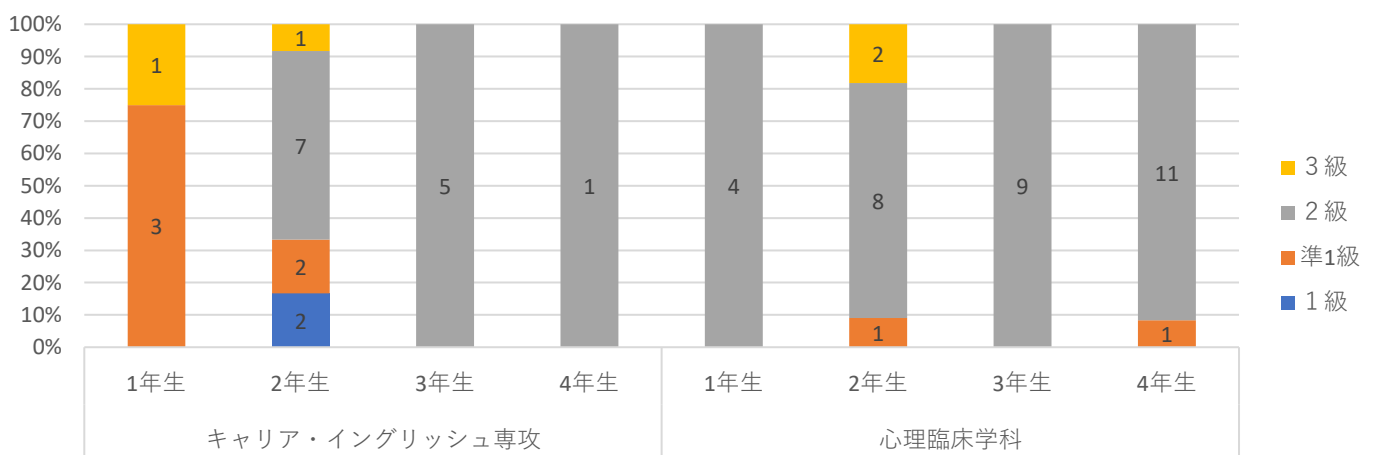
秘書検定に関して、その受験を目指しているかを「目指していない」「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」の選択肢より該当するものを選択してもらい集計しました。

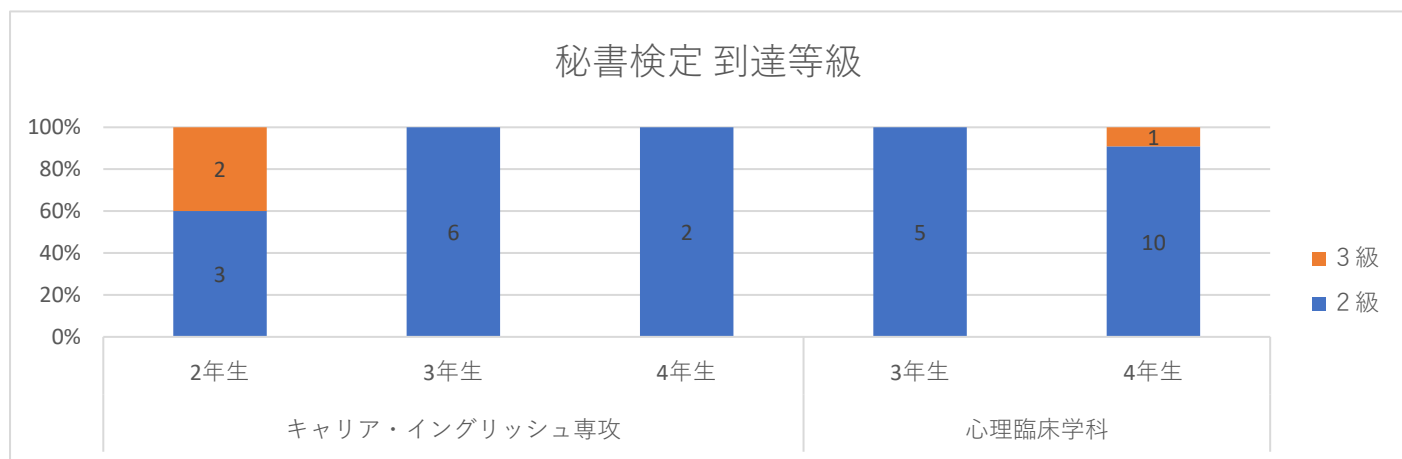
秘書検定



また、「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」を選択した学生に対してさらに目標等級と到達等級を選択してもらい集計しました。各学科・専攻・コース、学年ごとの回答者数における各等級の選択比率を以下に示します。

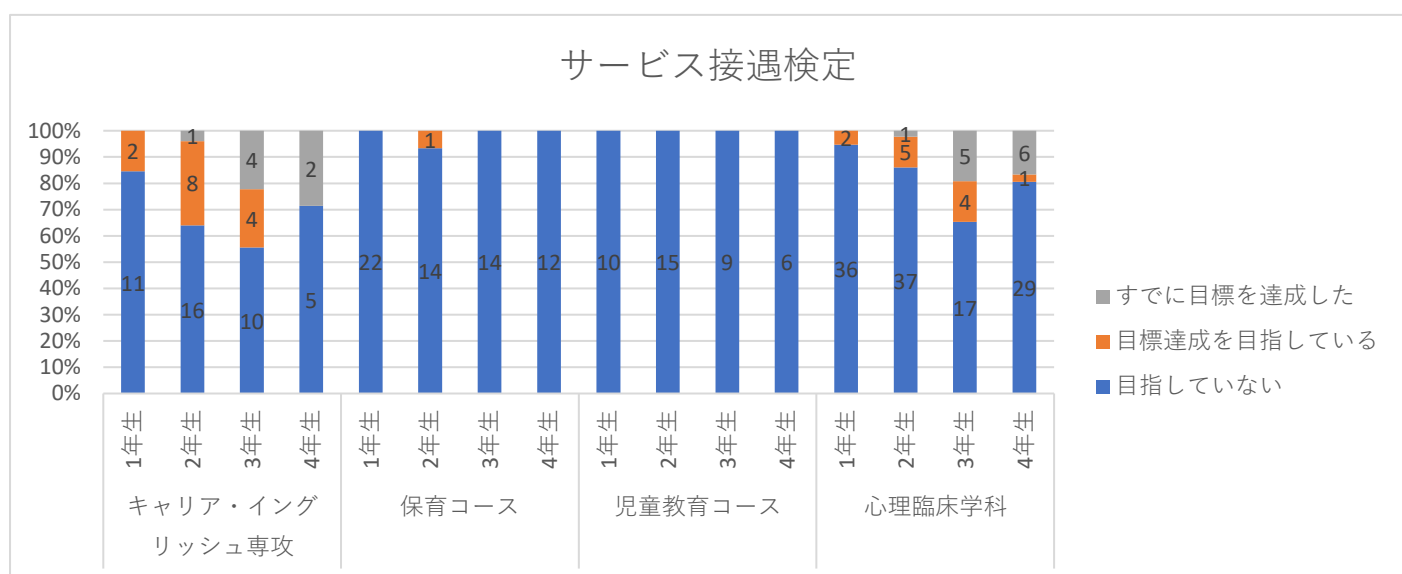
秘書検定 目標等級



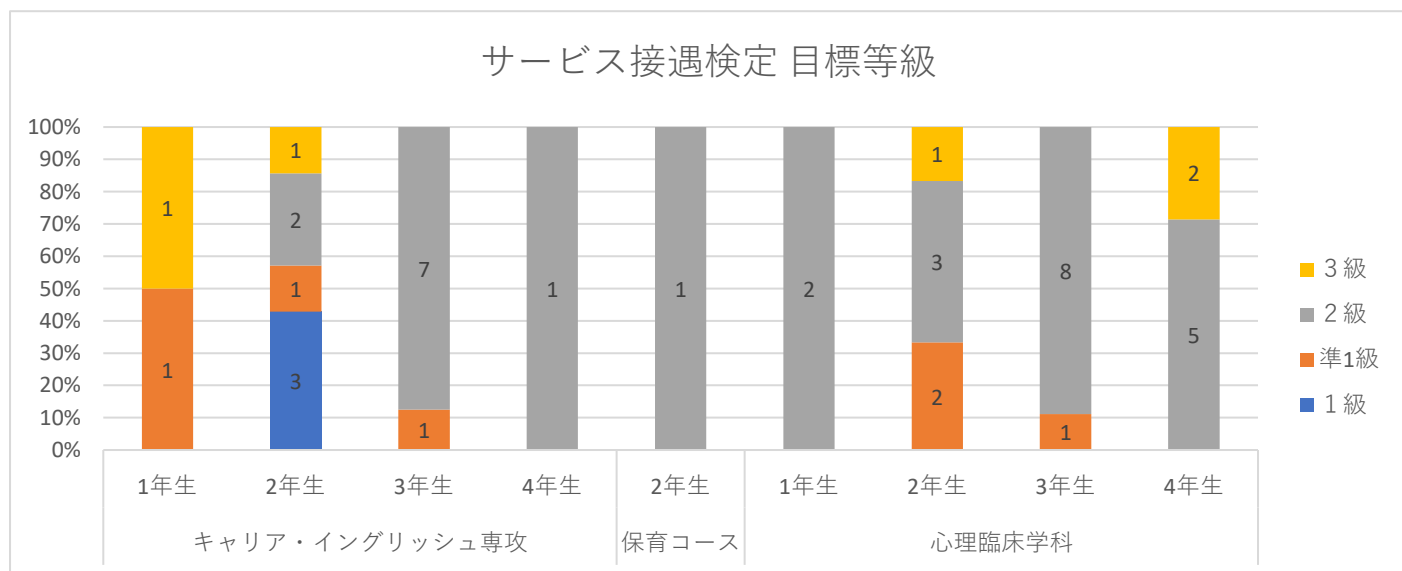


サービス接遇検定

サービス接遇検定に関して、その受験を目指しているかを「目指していない」「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」の選択肢より該当するものを選択してもらい集計しました。



また、「目標達成を目指している」「すでに目標を達成した」を選択した学生に対してさらに目標等級と到達等級を選択してもらい集計しました。各学科・専攻・コース、学年ごとの回答者数における各等級の選択比率を以下に示します。



サービス接遇検定 到達等級

